

## 財閥本社の解体

一九四五年八月〜一月の三井について

松 元 宏

はじめに

一九四五年八月一日、この太平洋戦争終了の日から、「財閥解体ニ関スル日本政府提案」およびそれについて「GHQ覚書」が公表された同年一月七日に至る間、財閥内部で戦後への対応がどのようになされていたか、その動きを三井財閥について素描してみたい。未だこの時期について、財閥資料の収集・整理は緒に上らばかりで、十分な資料吟味を経た検討は、後日に期せざるをえない。本稿では、さしあたり、断片的な資料を日時を追って紹介することにより、終戦直後の三井財閥の新たな対応とその挫折とを、首脳部の動きに限って明らかにする。

一九四五年八月一日から同年一月七日までの期間は、ほぼ三つの時期に分けることができる。第一段階は、八月一日から九月二日までである。九月二日、三井首脳部はロス電によって初めて、「財閥解体」条項を含むアメリカの対日方針を知った。この時点までの三井の動きには、「解体」を考慮した対応は全くないといつてよい。

第二段階は、九月二日から一〇月二日までである。アメリカの「財閥解体」方針を間接的に知った三井首脳部が、GHQからその真意を直接さぐり、また直接或いは日本政府を媒介とする解体回避折衝をおこなったが、結局一〇月二〇日、ESSのクレーマー局長から完全解体を要求された。第三段階は、一〇月二〇日から三井本社解散の具体的

方向が決まって、それが公表された一月七日までである。

注意しておきたいのは、三つの段階に分けたこの期間を一括しても、財閥解体全過程の第一歩である財閥本社の解体が始まった段階にすぎないことである。もちろん、この第一歩が三井首脳部の認識をはるかに越えて、以後の三井物産会社解体等、財閥の全構造におよぶ解体の出発であったことはいうまでもあるまい。

一 一九四五年八月一五日から九月二一日まで

一九四五年（昭和二〇）八月一五日、大日本帝国が連合国に対して無条件降服をし、第二次世界大戦が終結した日、三井本社審議室の日誌は、その日の動きをつぎのように記録している。

八月十五日（水）

一、帝国、ポツダム四国共同宣言受諾、御詔勅換発セラレ本日正午、畏クモ 天皇陛下ノ御放送アリタリ。

一、臨時非常措置委員会 午後二時半ヨリ第一会議室ニテ開催、出席者次ノ如シ、住井委員長、松本、佐々木、成瀬、大島、菊地、田代、竹内、余語、刀根、須之内、今井、市野各委員出席、他ニ審議室ヨリ瓜生主事列席、当面、緊急ノ問題ニ関シ協議打合せアリ

一、本日午後三時半第一会議室ニテ住井常務理事ヨリ本社部課長ニ対シ訓示アリ（参事以上）

一、本朝、瓜生主事、池田主税局長ヲ私邸ニ訪問セリ

翌々日の八月一七日、三井本社では、本土決戦を予想して、その対策検討のために同年三月設置されていた非常措置特別委員会を解散する方針を決め、改めて戦後の方針検討のために新委員会を発足させることになった。後に特別委員会と名づけられたこの新委員会は、つぎのような目的を持たされていた。

(1) 小数ノ適任者ヲ以テ突込シダ情報ノ交換、意見ノ開陳ヲナシ度キコト

(2) 委員ハ各社代表ト云フ意味デナク、三井本社ノ最高方針考究テフ総合的立場ヲ堅持シ度キコト

(3) 時節柄秘密ノ委員会ト致度キコト、從テ特ニ委員会ニ名稱ヲ附セザルコト

委員会ノメンバーは、三井本社ノ四代表取締役常務理事、住井辰男・松本季三志・佐々木周一・成瀬雄吾と、三井物産常務菊地泰、三井鉾山常務田代寿雄、三井化学常務今井富之助、三井精機常務刀根文雄ノ八名であり、當時ノ三井財閥経営首脳に限定された顔ぶれであつた。外に事務局を担当した三井本社審議室ノ瓜生春雄主事が書記として参加した。

八月二一日、三井本社社長三井高公が三井全勤務員に對して、つぎのような訓示をおこない、それは社報<sup>(3)</sup>に掲載された（資料1）。

#### 資料1 社長訓示

戦争終結ノ大詔ヲ拝シ奉リテ

去ル十五日畏クモ 天皇陛下ニ於カセラレマシテハ御躬ヲ御放送ヲ以テ非常ノ措置ニ依リ戦争ヲ終結セシムル旨ノ大詔ヲ渙発アラセラレマシタ。玉音ヲ拜シタ私共ハ一億民草ノ上ニ垂レサセ給フ大御心ノ弥深キニ只々感泣、熱涙ノ止メ度モナク流ル、ヲ禁ジ得マセンデシタ。

聖断ハ既ニ下サレマシタ。此千古未曾有ノ難局ニ直面シ世界ノ和平ト臣民ノ康寧トヲ冀ハセ給フ大御心カラ一億赤子ノ嚮フベキ途ヲ確然ト御垂示ニナツタノデアリマス。而モ 陛下ハ時運ノ趨ク所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ビ難キヲ忍ビ以テ万世ノ為ニ太平ヲ開カムト宣ハセラレ、又情ノ激スル所濫ニ事端ヲ滋クシ或ハ同胞排擠互ニ時局ヲ乱リ為ニ大道ヲ誤リ信義ヲ世界ニ失フガ如キハ最モ之ヲ戒ムト仰セラレマシタ。聖慮ノ程畏キ極ミテ御座イマス。

私共ハ今日迄国策ノ趨ク所ニ遵ヒ産業人トシテ日夜全力ヲ傾注、御奉公ノ誠ヲ竭シテ参リマシタガ遂ニ力及バズ斯ノ如キ最悪ノ事態ニ立到リ聖断ヲ煩シ奉ル事ト相成リマシタ事ハ臣子ノ分トシテ寔ニ申訳ナキ次第デアリマス。惟フニ三井ハ創業以來三百有余年、我産

業經濟ノ發達ニ大キナ地歩ヲ占メ國連ノ進展ニ寄与シテ參リマシタ。併シ事茲ニ到リマシタ以上、我三井トシテハ決意ヲ新タニシ新國是ニ即応シテ我國戰後經濟ノ処理ニ渾身ノ御奉公ヲ捧ゲネバナラナイト存ジマス。

三井ノ各事業部門ニ於テハ新情勢ノ影響ヲ蒙ル向キモ少クナイカト存セラレマスガ、關係各社ハ此秋コソ年来ノ提携ノ実ヲ挙ゲ、相倚リ相扶ケテ局面拾収ニ協力シ、更ニ綜合組織ノ持ツ特長ト強韌性トヲ發揮シ戰災ノ復興、民生ノ安定ニ最善ヲ竭シテ國家ニ貢獻センコトヲ念ジテ已ミマセン。

又三井勤務者各位ニ於テハ今ハ只聖旨ヲ奉行、大御心ニ歸一シ奉リ、徒ニ右顧左眄スル事ナク、敢ニ輕率妄動ヲ慎ムト共ニ飽ク迄困苦試鍊ノ生活ニ堪へ、確乎不拔ノ大勇猛心ノ下、夫々職務ニ挺身、國體護持ト國威恢弘トニ身命ヲ捧ゲ以テ、宸襟ヲ安ンジ奉ラン事ヲ堅ク御誓ヒ申上グベキデアルト存ジマス。

大詔ヲ拜シ茲ニ一言所懷ヲ述ベ以テ訓示ト致シマス。

以上

八月三〇日、連合軍最高司令官ダグラス・マッカーサーが厚木に到着した日、三井本社では、第一回の委員会が開かれ、「特別委員会」の名称、委員会の毎週金曜日の定期会合を決めた。資料2にみるように、この日特別委員会で話された内容は、生産の転換、過剰労働力の処理問題等を中心とした現状認識をめぐる意見の交換であった。この段階では、財閥の解体は全く問題とならず、三井財閥の存続を自明の前提とした戦後の転換問題が検討されている。ただ、最後に三菱の解散が話題になっている点は、暗示的である。

資料2 第一回特別委員会記録<sup>(4)</sup>

昭和廿年八月三十日午後三時半

於第一会議室

住井、松本、佐々木、成瀬、菊地、田代、今井、刀根

住井 少数デコンパクトナ集リ

住井氏ノブレイン

総合的立場、戦後方針

名称――

「特別委員会」――ト決定

定期ニ会合、一週一回金曜午后一時

無イトキハ新ニ通知ノコト

今日ハ経連ノ会合

官吏ニ任セテハ駄目ト云フ空気

○至急政府ニ申達スベキ事項

○終戦連絡中央事務局ニ民間専門家ヲ入レルコト

○美ノ部氏ヘ軍需工業転換ニ付テノ希望申入方具体案研究ノ事

住井 何が三井トシテ重要ナ緊急問題カ、意見伺ヒ度シ

労働問題、転換問題、対外的（米国等ニ）何ヲ云フベキカ

レパレイションノ対象トナルモノ（商品名）、事業部デ考ヘタモノガアル、ソレニ附加スベキモノアリ

化学、橋本氏ニ連絡シタ積リ（佐々木）、今井君頼ム

今井 従来ノ輸出品目ノ中カラ選ブ

原料関係ヲ見テ……

佐々木 五、〇〇〇、〇〇〇人ノ人ヲ運ブ必要アリ、スエーデンノ船デ運ブ案アレド、連合國ノ船デ運ブト云フナラ駄目

对手國ノ指示、交渉文書、至急終戦連絡事務局ヨリ入手シ度シ

住井 ヨシ、官ガ外國ノ申出ヲウ呑ニサレテハ困ルカラネ

松本 今ハ官民一緒ニナツテヤラネバ困ル

今井 昨日仙石、重政両氏ニ会ツテキイタ話

化学肥料作ラネバナラヌ、硫酸工業ヲ外国認メルカドウカ、外務大臣ハ悲觀的ナ口吻

工場ニ監視兵ヲ入レテモヨイ、是非ヤラネバナラヌ

即時計画ヲ建テテ実行、損害ヲ受ケタラ国家補償ノ肚

業者計画ヲ立テヨ(直グ)、三井ノ人出テ談判セヨ

住井 肥料ヤッタトキトヤラヌトキノ米ノ質量ノ点ヲ研究シテヤル(石川君)、数字的ニ頭ヲ作ルンダネ

今井 硫酸、朝鮮五〇〇、〇〇〇屯ナクナルンダ、先ヅ作ラネバナラヌトノ見地ヲ確立

住井 精機ハ硫酸機械ヲ作ルト云フ風ニ考ヘテ貫ヒ度イ

刀根 一応案ヲ立テヤウ

松本 磷鉱石ハ米国モ売り度イモノ、船モ利用出来ル

住井 満洲大豆モ絶対必要ト云ツテ貫ヒ度イ(今朝ノラヂオハ心外)大豆↓魚

住井 ソノ話ハ今日モ出タ、ゼスチュアダロウ

肥料ヲクレヌナラ小麦ヲ寄越セ、代価ハ〇〇工業デト云フ寸法

菊地 生存権ノ主張ハ強イ

成瀬 下部機構ヲ作ツテサウ云フ議論ヲドンノ作ツテ示シテハ如何

住井 次ノ時代ノ實際家ヲ集メテ委員会ヲ作ツテハ、外務省ニ連絡

ソレノ意見ニウエイトヲ作ル為メ井坂氏が出ルト云フ訳ダネ

館野氏ニ云ツタコトダガ「解雇ノ文章」ハ誤解ヲ招ク虞アリ

刀根 青年学校生徒ヤ何カラ帰ス為ノモノダ、残ツテル現員ハ解雇シナイノダ

住井 少シ違フ、期間ヲキツテソレ迄ニ申出レバ云々ト云フ訳

刀根 警視庁、大蔵省ノ許可ヲ得テ特ニ手厚クシタノダ

解雇奨励案ト見ルノハドウカ

住井 揭示シナイデヤレバ自然ニ伝播スルデハナイカ

館野氏ノ話ヲキクト精機ハ貧乏ダカラト云フ口吻、之ハイカン

成瀬 今日大蔵省ヨリ要求アリ

1. 企業ノ現状

2. 企業ノ転換

3. 補償ニ関スル問題

4. 給与、労銀、戦後対策

腹案ナシ、インフレンノ他ノ見地ヨリ之カラ研究スル模様

刀根 現実ニ数字ニ出ナイ補償ガ六ヶシイ企業カ駄目ニナツタコトニヨルモノ

成瀬 補償ニ付テハオ先真暗

住井 労銀ハ一日五円説ガ今日出タ

米ノ値段、通貨等トニランデ……

刀根 三菱一日置ケバ四〇、〇〇〇、〇〇〇円、手ガツカヌ

住友、退職希望者ナシ（今ヤメレバ之ダケ出スト云フテモ）

住井 三井トシテハ此方カラ罷メサセ度クナシ、社会問題

本社ノ方針ナリ——実物ヲヤルハヨシ慎重ニ扱へ、実収ノ三ヶ月分出スコトハ新聞ニ出テキタ、ソレデヨイ

刀根 要ラス人間ヲ使ツテオカネバナラス

住井 三菱財閥解散説アリ

社長健康 加藤一

今日モ東洋経済記者モ、ラシイト云フ

成瀬 対内的ニ岩崎氏責任ヲトルトノ話、銀行方面ニアリ

住井 二三日中ニ臨時招集スルコトアルベシ

四時四〇分 散会

九月七日、定例第二回の特別委員会がもたれた。住井委員長が病欠のほか、他の七名が出席した。話の内容は、資料

3にみる通りである。今後の事業方針、計画が話合われたほか、財閥の改革問題が取り上げられている点が目される。そこでは、財閥の家族主義、封建的なこと等が指摘され、三井家の資本独占が問題とされている。しかし、その後の深刻な事態を予測する発言はみられない。

資料3 第二回特別委員会記録

二〇・九・七 午後一時

於第一会議室

住井委員長病欠

松本、佐々木、成瀬、刀根、今井、田代、菊地

松本 昨日カラ今日ニカケテ新聞ニ出タ重光外相談、中島商相談ニ関連シテ成セ 業者ガ勝手ニ米軍地区司令官ト談合、許可ヲ得タ向アルトカ

自転車、富士アイス（アイスクリーム製造）

但、<sup>(2)</sup>ミシノ針ハ不可トカ

菊地 ソレハ日本ノ政府ヲ無視スルモノデ不可

刀根 芝浦電気ノ話、ラデオ、電気冷蔵庫、電熱器、医療機械等ノ製造ヲ開始セル由、早く実績ヲトルコトニナル、公定価格ノ大体三

成セ 倍デペイスル、ラデオ、二七円ノ公定ガ八〇円位デ出来ル、我々モヨク考ヘネバナラヌ

刀根 先夜式村局長ヲ招イタ、同氏モ労務者ヲ遊バセテオクノガ不可ト云フ

横須賀ハ車輛製造

自動車工業所要ノ機械ヲ作ルコトハ可能

タイプライター、化学機械、紡織機

今井 ニュー・インダストリートシテ四億円ノ肥料ガ絶対必要ト云フ訳

約七万屯ノ鋼材ガ要ル、本当ハ出来ル見込



疏安一、〇〇千屯作ルトシテ早くアウトラインヲ決メタイ  
早く出来ルコトヲ決メタイ

転換——染料ハ人口一人当カ、見テ最低限ハ分ル筈……

目下データーヲ蒐集中、大雑把デヨイカラ

松本 財閥トハ何ゾヤ、ヨク判ラヌ、蔣介石トスターリン以外ハ問題ニスマイ

田代 日比ノ俘虜慰問及投下ニヨル俘虜ノ怪我事件、国ヘ収容

刀根 余裕カナイト一寸偏在スレバ食フカ食ハレルカノ問題

社会不安、暴動、社会主義

松本 日本無縁、社長ダケ残り、他ハ職員モ工員モ全部ヤメルコトニナッタト云フ

菊地 三菱重工解散説ヲ今日持込ンダ者アリ、中島モ私営ニ戻シ一応解散スルト云フ

成セ 大キナ所ハサウシナケレバ整理ガツクマイ

刀根 失業問題解決ノ大問題カラ云ヘバ、金ノアル者ガ何時迄モ不要務ヲ擁スルノデナク、早く止メテ貰ッテ他ニ転換セシムベシト思フ

三井ノ名前ガ可愛サニ為スベキコトヲ為サヌノハ不可

不必要ナ仕事ヲサセ乍ラ止メオクノハドウカ

成セ 失業者ガスグ外ニハマルナラ宜シイケレド……

刀根 積極的ニ勸奨、斡旋スレバ、出ラレル者迄、止メルコトニナル

尤モ三井ダケノ話デハナク政府ノ方針ガ問題デハアルケレド……

一ツノ課題トシテ下サイ

成セ 何時迄モト云フ訳デハアルマイ

刀根 此間ノ問題トハ別ダ、アノ形式トハ別ダ

松本 カバーリング・レターノ文句ガイケナイノダ

刀根 三井トシテハ情勢ガカウナッタラ、モウ少シ考ヘ方ヲ変ヘルベキデハナイカ、時勢ダ

成セ 財閥ノ形態ガコレデイ、カドウカ、之ハ問題

菊地 ①戦後ノ統制経済ノ問題ガ頭ノ中ヲ去来中

町田、鳩山ノ論、反動時代ニ入ル

統制ノ技術ノミナラズ統制ノ根本理念迄問題トナル

行スギルカモ知レヌガ一度ハ反動時代ガ来ルト考ヘラレル

②今一ツ政治ニ対スル三井従業員ノ態度、

社員代議士ニナルコト、今迄ハ不可ダッタカモ知レヌガ、今後ハドウカ、本社モ方針ヲタテヨ

今迄ハ不文律デタブー 文書デナクテモイ、ガ指導精神ヲ考ヘテオク要アリ

以上二ツ、私結論ハ持タヌガ研究ノ要アリ

成セ 今度ハ全体ガサウナッテ行ク

菊地 サウ指導スベキダト思フ

財閥トシテ纏ッテ行クノハ過去

之カラハ有力ナル従業員個人個人ガ入ルガヨイ

国民ノ一員トシテナラ結構

三井各家ノ有スル資本的勢力ハ身軽クナルト同時ニ風当リガ弱クナル道理、シエアーヲ減スコト

シエアーヲ沢山持ッテ居乍ラ風当リダケ弱クシヨウトシテモ無理、ノルカ反ルカデヤルナラ別ダガ……

今后ハ三井家ハ身軽ニセヨ

各事業ハドシクヤレ、大キクセヨ

刀根 アメリカ、個人主義自由主義ニ行クカ

ソビエツト、社会主義ニ行クカ

日本ノ財閥ハ家族主義、封建制度

菊地 壁ニ頭ヲブツケルゾ

成セ 三菱本社解体論アリ實際ニドウスルカ、六ヶシイ

菊地 ドシ／＼社員ニ談議サセルベシ、物産会社デハ近ク組織ヲ作ツテヤル積リ、民主主義、社会主義ノ国家トナレバ、サウシナケレ  
バナラヌト思フ

刀根 困難ナ嫌ナ問題デモ正面カラ打ツカラネバナラヌ

成セ 適当ナ手アリヤ、本社ニ外部株主アルノガ困難

社外株主ノ措置

菊地 オープンニセヨ

刀根 解散ニハ方法ナカルベシ、旧態依然タル株式操作ハ不可

菊地 金持トシテ三井家カ存在スルハイ、ガ、中心トシテ行クト打ツカル

佐々木 本社ノ株ヲ公開スレバヨイ

成セ 一ツノコンツェルント云フ点ハ変ラヌ

佐々木 進駐期間中三井家ニ代リ、三井事業ヲ管理スルト云フ話モアルトカ

二時四五分

九月一四日、第三回特別委員会が開かれた。その内容は、資料4にみる通りである。

資料4 第三回特別委員会記録

九月一四日午後一時

於会議室

住井、佐々木、菊地、田代、刀根、瓜生

住井 連合国ノ新聞記者色々来テ困ル、今日ノ産業経済ノトツプニ財閥ノ記事アリ、一時財閥ノフアミリーハ自由主義デアッタ

ミリタリズムデハナカッタガ、ナシヨナリズムトハ云ヘル

菊地 モノポリーシテキタト云ヘル

住井 ソレ程モノポリーシテキタカ

菊地 大財閥ヲ二ツ三ツ合セレバモノポリーシテキルト云ヘル

刀根 アメリカデモシクスステイ・フアミリーズト云フノガアル

住井 或ル記者「ジャパニーズ・コンペテイション」助長スルモノガ財閥」ト云フ

モルガンハ三〇〇億ドル投資シテキルト云フ、桁ガ違フ、一ドル一〇円トミテ三〇〇億円、三井ハ一四億円

瓜生 戦争中財閥ノ地位ハ割合ガ減ツタ

佐々木 三井ヲオーバーパリュンシテキル做アリ

住井 石炭ノピークハ

田代 一九年、五、〇〇〇万屯ヲ切レタ、今年上半年二、〇〇〇万屯 下半年一、〇〇〇万屯出レバ上乘、現在：半分出ナイ所カ三分

ノ一出レバヨイト云フ方、捕虜不働、半島意ケ出シタ、従来カラ居タ者出役悪シ（職員ガ気が抜ケタ）

会社ノ自動車七台中一台シカ動カヌ、食ベ物ノ問題

田代 兵長、軍曹トモナレバ坑内ニ入り度ガラヌ、主計中尉ヲ判テ年二、三億動カシテキタノガ帰ツテ来テ困ル

菊地 一度失業ヲ味ハセナケレバイケナイ

田代 失業一千万、働ケル男ノ半分ハ失業スルゾト云ツテモピント来ナイ、熱ガナイ

刀根 働イテツトメ上ゲテ出世スルト云フ観念ナシ、ホントニ立直サウトスル所デハ一応全部辞職サセル手ヲトツテキル

大同製鋼ハ職員工員全部辞職スルト云フ、三井ガ大株主ダ、我々ガリオーガナイゼイションヲヤツテヨイ

住井 三井ガ大株主ト云ツテモ一割位カ

刀根 軍ガ手ヲ引ケバ三井ガ第一位、ヤラネバナナルマイ、芝浦モ再整備トナレバ発言権ヲ持ツベシ

住井 G・E其他来ル、山口氏又三井ニ泣ツカウ、鐘紡七億ノ借金、之ハツブセババニツク

住井 (産業経済ノ記事ヲ読ム) 三井物産ハ昔ノヤウニヤレルカ、貿易ハ益田サンカラ出直シカ

刀根 現物賠償ハ割当ダ

佐々木 戦争責任者ノ追及、内閣改造困難、米国内輿論、上院穩健、ソ連ノ糸ヒク

満州邦人ノ流民化、朝鮮ノ現状

海運総局長官ノ話、終戦連絡事務局改造問題、外ム省ノ論モ一理アリ、船舶ノ割振ニA、Bマダ一致セザル由

田代 色々ノ現象ヲツキツメテユクト内部崩壊トナル惧アリ、恐ロシイ政治

住井 政治デハナイノダ

刀根 東京新聞ノ論説、議会同、政治家官僚全部交替セヨト説ク

住井 仕事ガ(ノーマリーニ働イテキルモノ)アリヤ、ナイナラ今切替結構ダ

佐々木 池田サンモ官僚ハ悪イト云ツテキタガスクラム組ンデキルカラ、メスヲ入レニクイト云フテキラレタ

菊地 御聖断ニヨル外ナシ

佐々木 議會ガ強クナリ、分限令、任用令ガ変レバヨイ、軍、官、ヲヤレバ我々モサウダ

瓜生 無産党ノ進出問題、ソ連ノ軍資金

田代 鉱山デハ、戦時中責任ヲ以テ仕事ヲシタ者ハ重要視スルガ、サウデナイ者ハ然ルベク処置スル方針

住井 結構レイバーノ問題モ大体外ノ会社デヤリ始メタヤウダカラ宜シイコトニスル

九月二一日、日本の新聞がロスアンゼルス電として「三井、三菱ノ解体」を報道した。この日の午後開かれた第四回特別委員会では、この報道に関心が集中し、その電報原文の入手を急ぎ、住井委員長はつぎのような発言をしている。「原文マダ入ラスカ、色々各紙ニヨツテ違フ、復興工業社ハアクマデアル方針、イヨ／＼トナツタラ本社ガ変ツテモヨイ、私ガ社長、池上君ガ副社長ノ腹案、建築ト土地改良改革ガ目的、干拓シテモ土地再分配ガ起ルカナ」。彼の発言にみられる認識では、財閥の或る程度の改革は避けられなくても、その徹底した解体は予測されていない。

間もなく、委員会の席へ西村本社総務課長によって、つぎのような原文がもたらされた。「Mitsui and Mitsubishi and other Japanese industries will be broken up, and their external assets will be subject the reparation,……」。省略部分はわからないが、委員の松本常務理事は、「国内デ傑出セルモノヲ相剋ニヨリツブサウト云フノダ」と見解をのべている。

(1) 三井本社審議室「日誌」八月二〇日には、「非常措置特別委員会ハ情勢ノ急変ニ伴ヒ一応解散ノコトト決定、ソノ慰勞午餐会ヲ来ル二十二日(水)正午、本館小食堂ニテ開催スルコトト成リタリ」とある。

(2) 八月一七日付のつぎのようなメモが残されている。

「一、情勢ノ急変ニ鑑ミ從來ノ非常措置委員会ハ之ヲ解散スルコト

(註) 非常措置委員会ハ本年三月末成立以來回ヲ重ネルコト十四回ニ及ビタリ

二、三井ノ戦後方針考究ノ為メ本社ニ特別委員会ヲ設クルコト

(註) 新委員会ノ特徴ハ……(以下本文中)

(3) 株式会社三井本社「社報」第62号、昭和二〇年八月二日。

(4) 特別委員会の記録は、瓜生審議室主事が書記としてメモを残したもので、意味の不明瞭な部分もあるが、財閥解体にかかわる部分を中心に、できるだけ原形のまま掲載した。メモのうち英単語を使った部分は、片仮名に直し傍線を付した。

二 一九四五年九月二一日から一〇月二〇日まで

九月二四日、ロス電を裏づける具体的な占領政策(ワシントン二二日発)が新聞で報道された。この一九四五年九月六日大統領指令「降伏後における米国の初期の対日方針」(発表は九月三日)の経済条項について、審議室の瓜生主事は、「日本の商工業ノ大部分ニ支配力ヲ有スル大産業コンツェルン及ビ金融コンツェルンヲ解体スルタメノ計画ヲ助長スル」云々と記録し<sup>(1)</sup>、その意味するところの重大性に注目している。

この直後、瓜生主事は、池田勇人大蔵省主税局長に会い(九月二五日)<sup>(2)</sup>、得た情報を三井本社常務理事に提出しているが、その内容は明らかでない。「コンツェルン解体」の真偽、見通しについての情報であったことは、間違いあるまい。この間、三井首脳部は占領軍と直接の折衝を望み、マッカーサー司令官との会談実現に尽力していた。その会談は実現しなかったが天皇がマッカーサーを訪問していた九月二七日、その同じ日に住井・松本三井本社常務理事は、経済科学局(ESS)のクレーマー局長と三井綱町クラブで初会談に成功している。この時の会談内容は、一〇月五日に開かれた第五回特別委員会で住井常務理事から話されている(資料5)。なお、会談は一〇月二日にも、帝国ホテルでおこなわ

れている<sup>(3)</sup>。

一〇月五日、第五回特別委員会が開かれ、資料5にみるように、その後の経過報告と情勢の検討とがなされた。

資料5 第五回特別委員会記録

一〇月五日午後一時 於七階小食堂

松本、佐々木、成瀬、田代、今井、刀根各委員 瓜生陪席

（住井氏ハ商工省ノ会議ニ出席、菊地氏ハ病欠）

松本 内閣総辞職ノ由、後ハ判ラヌト云フ、吉田氏？

先般来クレーマー大佐トノ交渉ヲ話ス、マッカーサーノ信認大、先週末（木）住井、宮崎、私、綱町デ会见（先週ノ九月二七日

木曜ニ会ヒ、ソノ后モ一回会见）

我々ノ得タ印象

認識不足ノ嫌アリ、日本ノ財閥ヲ欧米ノ財閥ト同一視セル所カラ出テキルヤウナ点ガ多イ

①日本ノ財閥ハ政治的ニ興味モ、勢力モ、関係モナキコト

②日本ノ財閥ハ商品ノ独占ヲ狙ッテキナイコト

—— 特異性

①ノ如キハ夢ニモ思ハナカッタラシイ三井ノ本ハ銀行、物産（造船・船舶・精機）、鉱山（化学）ナルコトヲ説明、之カラ派生シテ發展、ゆえに平和と産業ヲ根幹トス

之ヲ軍需産業ニ切替ヘルコトハ事実上六ヶシカッタ、之ガ軍、国民カラ三井ノ不熱心ヲ云々サレタ時節、平和ヲ共ニ樂ミ、戦争ヲ共ニ苦シムト云フ建前、商売―平和―戦争ニハ反対

天皇ニ何故上奏シナカッタカト云フ、直接出来ヌトセバ大臣ニ知合ガアラウト云フ、パーソナルフレンド、インティミットフレンドナシ

三井ノ如キ所ニ戦時中内閣カラ連絡ナシトハ考ヘラレヌ、ト云フ

住井氏ハ東条、小磯、両首相カラ呼バレタコトモ、会ッタコトモナシト説明

軍部トノ関係

滿洲不可入、山西事件

關係会社中、政府ノ末端ノ役所カラ色々命ゼラレタ事ハアルガ政府カラ三井ニ大キイ話ハナイシ、此方カラ何モ云ヘナカッタ  
独占ノ問題

○ナンバー一、石炭、鉾山ノ出炭高ハ全国ノ一割五分乃至一割八分

○貿易、物産一割六分―一割八分ト思フ

ナショナルインカム中ミツイインカム、国民所得一〇〇億―一八〇億、三井ノインカム、タックスヲ払フ前ニパーセント―三パーセント、之デハ納得シマイ

○保険

○銀行―三井銀行ヲ使フパーセントハ少イ

○船会社―他社使用フリー、他社ノ荷物モ取扱フ、大分意外ダッタラシイ

アンフェア―コムペティション……

ヨリ認識シタ上デ、国内的、國際的ニ有害トミテ云フナラバ宜シイガ、認識不足デ彼是云フノハ残念、有リノマ、ノ姿ヲ調べテ  
クレ

米輿論ガ財閥ニ対シ硬化、之ヲ無視出来ヌ

マッカーサーハ偉大ナ人物、一九七五年或いは二〇〇〇年ノ時ノコトヲ考ヘテキル、彼ヲ最高司令官ニ持タノハ、日本ノ仕合せ  
ダ、材料ヲ出シテヨク解ツテ貰フベシ

併シモトク輿論ノ国ダカラ輿論ニ引ズラレル点ナキニシモアラザル点考ヘラレ度シ

前晚、グループ・オブ・リーダーズニ会ツタガ何物モ得ナカッタ、ウエイスト・オブ・タイムダッタ

ソノ後一〇月二日火曜日四時頃彼ガ来テ七時ニ会ヒ度イト云フ

帝国ホテルデ又三人出カケテ七時―一〇時半会談

住友ヤ三菱ノ例モキカレタ

全体トシテハ三井ガナンバー一ト答ヘテオイタ、三大財閥、東洋經濟其他ノ資料デリポートヲヤルコトニシタ

会ツテ応答サレルコトガプラクティカル、度々会ハウ



オフィス・エクストラトシテ部屋ガ欲シト云フ

政治顧問 ジョージアチソン

米政府カラ来タ者

経済科学部トハ対蹠的立場ニアル者

仲ヨクナイトノ情報モアル

以上ヲ話シタラクレーマーハ俺タチトハ関係ナシ、五階ハ嫌ダト云フ、結局六階——明朝九時半、喜ンダ

インフォメーションノ要求ガ来タ

各社ノ一〇年間ノバランスシート、総会議事録（プレジデントノ演説）、五百株以上ノ株主、株式ノ異動、取扱先（三パーセ

ント以上ノ取扱先）

（クレーマー来社、松本氏退席）

成瀬

三井本社ノ子会社カ、三井本社ト物産ノ子会社カ、直系、準直系ノ子会社迄含ムトナッタラ大変ダ

昨日三井、三菱、住友、安田ノ幹部ガ寄ッタ

ソノ時三菱 田中光三、平井常務

住友 北沢常務

三井 住井氏モ出席

太田三郎呼ブ（京都へ転出）

昨夕四時来テ明九時半出頭（五日）

ソノ前住友ハ今日九時半ニ出頭ヲ命ゼラレタ、三井ニ連絡ニ来タ、話ハ財閥四社ノ共同戦線ノ問題ニハ触レナカッタ

太田氏ノ話ノ中、本位田氏モ一寸顔ヲ出シタ、本位田モ米ノリポーターカラ財閥意見ヲ求メラレタ

アンチトラストロー

アンフェアコンペティション

トハ非常ニ違フ三週間折衝シテ

最初ハマックハ宥和政策ヲ発足、最近ハマック司令部ハ本国ガ強クナッタカラ、強クナッタト見ル人モアルガソーデナク米輿論

ヲ意識のニ硬化サセテ急進、ニューデール關係者多ク来テキル、シクスメンアフェアノ二人来ル（入牢シテ出テ来タ者）

滿州軍官ト同一、貧乏ナ日本ガアノ軍備ヲシタコト、貧乏ナ日本ニ巨大ナ財閥ガアルコト、驚クベキコト、民衆ヲ苦シメテ此富ガ出タト見ル、独占トカ何トカノ理論ヨリモモット根強イ

民衆ヲ搾取シテ集積セル富ガ三井等ノ富ダト云フ

田中氏ノ之トノ話ハ根本ニブツカルナト云フ、話ハクレーマート一致シナイ、ソレハ腹ノ中ニイデオロギーガアルニ違ヒナイ日本ニ革命ヲ起サセテ力ヲ弱メルト云フ考ヘハハナイクト聞クト、太田氏ハ革命トハ云ハヌガ、ブルドーザーデ引カキマワシテ、新シイモノヲ期待スル考ヘハアルラシイ、パブリシテイニ対スル考ヘガ甚ダ強イ

日本民衆、米國輿論ノ反発ヲ氣ニスル、クレーマー、弱商人、百貨店主、中小商業者

モルガン・ミルン等ニ対スル考ヘ（反感）ガアリハシナイカ

今井 平和的ニハ國際商売上三井ノ偉大ナルコトヲ彼等ニ説明シナケレバナラナカッタノダ

三井各社コオペレーションヲ強調シテ一手販売ヲトツタ、永年之デヤツテ来タ、彼等ノ常識ニナツテキル

刀根 一応知ラナイ人ハ納得スルダロウガ、段々勉強スレバ直グ判ル

政治的デナイト云ツテノインタレスト云ツテ納得スルカ知ラ、全部真デハナイ

三井ノ歴史ヲ見ヨ、政党等カナレバ之ト結び、軍等カナレバ之ト結び、官トモ結び、下ノ方ニハ要処、要処ニ連絡ヲツケ、三井ノ力ヲ結ンダ

成瀬 ソレハドコデモ（財閥以外デモ）ヤツタ事

刀根 云ハナイ所ニ問題ガアル

成瀬 ドウ云フ形デ解体シヨウトスルカ、マダ判ラヌト太田氏云フ、誰ニモ同ジ質問ヲシテキルガ、ドウ云フ形カ見当ツカヌ

具体的ニハドウシロト云ハズニ、三井ノ会社カソレナラ不可ト云フカモ知レヌト云フ

今井 輕卒ナコトハヤルマイ

佐々木 内務省ノコト、此方デ先手ヲ打テバ、ソコマデ行カナカッタト云ヒ得ルヤ、三井ガ先手ヲ打ツ要否ノ問題

（松本氏掃席）

刀根 三井ニ戦争責任ハナイト思フ、米国内ヨリモ過激ナ連中ガ何カヤラウトスル

松本

国内ノ分子、民衆の輿論硬化、之カ最大ノ問題、之ヲ最モ警戒ヲ要ス、マツク司令部モ日本国内輿論ヲ重視ス、日本ノ輿論ニ  
アピールスル対策ヲ考ヘヨ  
クレーマートノ会見

「本社トハ三井一家ノ財産ヲ擁護シ、ソノ利廻ヲヨクスルノガ全部ノ目的デハナイカ」「イヤ、大衆ノ福祉モ」「本社ガアルカ  
ラ損失会社ヲ援ケテキルノデハナイカ 商売ノ上カラオカシイ」

「今ハ損デモ将来ハ違フ、目先ハ別」

「パブリックウエルフェアハビジネス経営方針トシテハ不可」

「パブリックウエルフェアスルナラ三井家ガヤレバヨイ、会社ガヤルノハ不可」、（三井本社ノ配当辞退 五五〇万円寄附）、「少  
株主ノ利益ヲ擁護スル要アリ之ト相反スル、幹部トシテ不可」

「三井、三菱等チャリテイヲヤルノハ昔カラノシキタリ、利益打算ヨリモ精神的ナモノアリ」

復興事業会社―営利ヲ目的トセズ、家ヲ作ル、コストデ売ルト云ツテモ、利益ヲアゲヌトハ云ヘヌト云フ、傘下ニ色々会社ア  
リ、失業モ起ル、損ニハナラス、民生ニ寄与スルト云フナラ、俺ノ方ニ来ルナラ白紙デ見ルト云ツテ別レタ、  
今日来タ話

日本政府ハナツテナイ、建設工業ヲヤルト云フガ  
政府ヲドウスレバ動かセルカ

今井

私 厚生省―一本デヤレルヤウニスベシ、木材統制ヲヤメロ、ソノウチ支那産ノモノガアツタラ知ラセル  
日本ニハ「損シテ得トレ」トノ謬アリ

松本

復興建設工業

一年損、二年損、三年パー、千拓ハ残ル

刀根

手取り早く行クト云フ点ヲ強調セヨ、能率、イ、モノヲ低廉ニ出来ル

松本

政府デハ出来ヌ

松本

遠慮セズドシク案ヲ持テ行クコト肝要

今井

アンマリキレイニ行クト向フニハ判ラヌ

松本 クレーム、二大不思議、①国民ガブラインドオベディエンスナルコト、上陸シテ何等ノ事件起ラザリシコト、②ストラクチャー  
ーオビビジネス

今井 解体論ニ付具体的ニ何ヲ考ヘテキルカ片鱗ワカラヌカ

松本 判ラヌ、先方カラノ注文ハナカク大変ダ、併シソレガ先方ノ狙ヒ、コントロールリングパワー米國デモ表面カラハ判ラヌヤウナ  
ノモアル、特別委員会ヲ作ツテ出シテ貰フ積リ

成セ 本社デ翻訳スル

今井 米モトンダオセツカイ

松本 米ヲ利用シテ日本ノオーガナイゼイションヲ立派ナモノニスルンダネ

今井 ソコ迄日本ヲリードスルンナラ、食糧問題ニ一肌脱グヘシ、日本政府ハダメ、三井一役買フベシ、農民ハ米ヲ供出シナイト云ツ  
テキル、米ノ買上ヲマックH・Qガ直接ヤリ、ソノ米ハ一粒モ米軍ニハヤラヌ、日本国民ニ配給スル、ソレデモ天候其他デ不足  
スルナラ輸入シテヤル、ソノ代リ米國ノ云フコトヲキケト云フ、之ガ米國ノウマイヤリ方、三井ガ之ヲ扱フ

三井、焦眉ノ大問題ニ直向セヨ

成セ 太田氏ノ話デモG・H・Qハ直接ニ出タクナイラシイ

刀根 三井ガ米ノ配給ヤッタラ日本國中大変、倉庫ハ襲ハレル

今井 憎マレテモ誰カヤラネバナラヌ

刀根 ウマクヤツテモ足ラナイノダ

(住井氏出席)

住井 商工大臣ノ話

新聞ニ出テキタ政策ヲオ願スル積リダッタガ、内閣総辞職ニナッタ、新大臣ノ為ヨロシク願フ、トノ事、内政干涉ダネ

刀根 日本デニューエクスペリメントヲヤラウト云フノダ

住井 革命ヲ起セト云フコトダ

佐々木 同盟通信ノ話、エクスパート、有能ナノヲ採用シテハ?

ニュースノ配給ハ不可ダガ、自家用ニトルノハヨイト云フ

住井 東洋經濟、石橋堤山ニG・H・Qカラ自由ナ意見ヲ求メラレタ

質銀、財閥問題、緊急品ノ入手方法等、一〇万円貸金——石橋へ(成セ氏へ)、要ハ世ニ珍ラシイ四大財閥、コノブア一ナ日本ニ之アルノハ、キツト中小商工業ヲ圧迫セリト見ルラシイ、少ナクトモクレーマーハサウ思フ

向フデハ却テ四大財閥ヲ活用シテ行ケトノ説アリト本位田云フ、併シ今日ノ毎日新聞ノ論調ハドウモ行過ギ、財産税迄話ガ出ル、急進的ニヤツテウイークニシ絶対戦争サセナイ考ヘ方

建設工業ヲ許シテクレルト云フト、而モ財閥ヲ解体スルト、ドウナルノダ、辛イコトニナル

住井 各財閥ヲ比ベテ見テ、日本ニ似ツカワシクナイ程大キクナツタ、一方他ニ新興ノモノ起リ、之ガ政府資金ヲ多ク使ヒ、段々大キクナツタ

僕ハ国内的ニ悲觀シテキルガ相對的ニハ

住友、古田——理事長デ各社ノ会長

三菱、岩崎——各社ノ中枢ニ入ツテキル

三井——コントロールリングシステムハ左程強クナイ、水モモラサヌ細胞組織デ利益ヲ壟斷シテキルノデハナイ

各社インデペンデント——フリーナ立場デ、事業ト株主ノ事ヲ考ヘテヤツテキル、之ハクレーマーニ判ルト思フ

某政治家ノ話

三菱、郷古——責任者トシテ決ツテキルトノ事

住友、古田——責任者トシテ決ツテキルトノ事

三井、向井カ小池カ住井カ

——マダ決ツテキナイトノ事

刀根 重点——財閥ノ大トナレルハ一般国民ノ犠牲ニ於テナサレタモノ、連合軍ヨリモ国内ノ輿論ノ方ガ怖イ、ミニマムエグジステンツヲ維持スル為メニハ世相、民衆勢力、財閥ハ狙ハレル、国内ニ手ヲ打ツノガ緊要、解体スルニシテモ活路ヲ見出スコト必要、先

手ヲ打テヌカ

マックH・Q、立権ハ持テキヤウガ、米國輿論ヨリモ、日本ノ輿論ノ方ガ大キクヒビク、政治犯人ノ問題モ日本輿論ガ先

成瀬 具体的ニ如何ナル手ヲ打ツカ

今井 大衆ヲウマクゴマカスノモ手、ズルイケレド止ムヲ得ナイ

住井 國ノ為ト云ツテハイカン、大衆ノ為ト云フノダ、“Democracy Advanced”ト云フ本

三井ガ残ルノガ國家ノタメト云ツテハイカヌノダ

刀根 デモクラシーハ家族制度ト相克シナイ、家長、酋長、國家主權者、日本ハ家族制度カラナカクヌケ切レヌ、ソコデ結局、日本

ハデモクラシーニナリ切ラズニ社會主義ニナル

日本ノ財閥ハ家族主義制度（家族主義ノ變形）、極端ナ強力ナ制度、ソコニ考ヘヲ及ボス要アリ

住井 商工省デ、石炭、月七万屯朝鮮へ、朝鮮カラ米、塩等ヲ貰フト云フノダガ交易營団ハ如何

端境期デ米ナシトノ事、塩ダケ持テクル

政府ハ取扱商人ヲ指定シテ取扱セルト云フ、セトルメントーゴールドアカウントデ飯ニヤル

当方カラエクスチェンジヲ云ヒ出スト損ダト大蔵省見ル

⑤ デヤルトノ事、總督府ガヤルノカ、M・H・Qノ日本ト朝鮮ノ両部デ取扱フノヂヤナイカ、商人ノ手ヲ通サヌノデドウナル

カ、朝鮮政府カ、M・H・Q朝鮮班カ、商売人ガ参加出來ル余地アリヤ

成セ 三井、三菱ノ機構デナクテ、アゲタ利益ヲ三井家ニ行クト云ノガ問題ダロウ

住井 子会社ノ半分ヲ本社持チ、本社ノ株ノ六三パーセントヲ三井家持ツ、三一パーセント、之デモ多イカ

成セ ラモント 八パーセント持テパコントロール出來ルト云フ クレーマンソノ考ヘナラン

刀根 何パーセントト云フニアラズ、オーガナイズドコントロールヲ解体スルト云フノダファミリイコントロールデナシ

普通ノシェアホールダーノ考ヘデ行ケ、マネージメントハシェアホールダーノ、利益モ考ヘテヤレト云フノダ

住井 三井家ガインデビジュアルシェアホールダーニナッタラ本社ナントテ不要ニナリハシナイカ、

寄附ノ受付処

成セ インベストメントトラストニ本社ガ變ル

住井 プュアビジネスライクインベストメントトラストニナリキレバヨイガ、尚没落セル旧家ガ寄附金ニ追ハレルノハ愚ダ、ソシナ

本社デモ本社ハナケレバナラヌカ

成セ ナイ、清算出來ルカドウカ、三井家ハ赤ニナル、技術的ニ六ケシイ、三井家、株公開↓インベストメントトラストニナル、イン

ベストメントトラストハ株主権ヲ行使シ得ルヤ、アルトスレバ三井以外ノ者ノ指図ヲ受ケネバナラヌ  
佐々木 六三パーセントノ中二〇パーセントヲアメリカニ持タセテハ

住井 今経済的関係ラインバイトシテモダメ、平和条約出来テカラノ事、モット先ノ事  
成セ 三井家ハ株主権ヲ行使セザル事ヲ声明スルコト

(成ルベク速ニ出来ルダケ公開スル)  
三井家が第一線カラ退ク 声明

今井 米以外ガ色々云ヒ出スト複雑ニナル

住井 悪イコトヲシテキナイフアイトスルカ是カ、大勢ニ順応セネバナラヌカ

今井 日本民族ノ為ニナルナラフアイトセヨ、ソレナラカムフラージ モセヨ

住井 根本的革新デナク一応カムフラージシテ時局ヲ乗切ルコト、一〇年、二〇年、三〇年先迄、古イ我々ノ考ヘ方ガ正シカッタト云ハレル時代ハ来マイ、精機、労務者ノ解雇?

刀根 多イ所デハ全然従業員ノ三分二々六割ガヤメタ、上程残ツテ、下程ヤメタ、少シモ強制セズ、自発的、ヤメ度イ人ガアレバカウシテヤルト云フ方式、会社カラ誠首サレタトノ印象ハ全然ナイ、停年デヤメタ者ノ中二一、二問題アリ

今井 私ノ方ノハ全然解雇セズ、仕事ヲ作ラウト努力中、クレーマートノ話ノトキブツシユシテ貰フルトヨツケタイ

今井 本社的存在ノ価値ヲ話ス材料ニナルネ  
肥料問題七億円、二千万石増収、農村カラ出資、製品ハ農家ヘ還元、三井ガ工場ノスーパービジョンヲ持ツ、農林省ニ相談シテキタガ総辞職ニナッタノデ又オクルル、三井ガ経営ニ当ラネバダメ

住井 君達ノヤッテルコトヲ、ドコカ本社ニマトメナケレバナラヌ  
松本 向フカラ現ニ来テキル、連絡頼ム

刀根 肥料会社ヲ買収シテ、コオペレイティブカンパニーヲ作ルノハ、アピールシヤウ  
今井 補修シテモ間ニ合ハヌ、間ニ合ハヌノヲ新会社デヤル案

成セ 昨日太田ノ話、補償ークレーマーノ方ハ辛イラシイ  
刀根 疎開費用ノ補償マデ今出テキル

住井 ヲ本社知り度イ(三井關係会社)

今井 朝鮮、満州ノ事業、希望トシテハ日支合併デヤツテ行キ度イ、サウダトスレバ何トカ機会ヲ作ツテ支那側ト話合フヤウニシ度イ、支那ノ言論界ノ人モ来テキルヤウダカラ……

将来我々ハ支那デ仕事ヲセネバナラス

住井 一辺カウ云フグループデ一遍中訖社ノコレスポンデント(同盟ノ長谷川氏ノ推薦)ヲ呼バウ(昼飯デモ)  
P M 四・三〇

一〇月六日、瓜生主事は財閥解体問題について、大蔵省官房渡辺企画課長からの情報を入力し、それを常務理事に報告している。資料6にみる通りである。渡辺課長は、個人的見解と断わりながらも、財閥自らの解体方針の提示を促し、もしその実施が遅れるようならGHQの指令が予想されることを注意している。とくに、クレマーの意向からして、財閥本社の解体とその結果としてコンツェルンを構成する傘下会社の自立化が不可避であると伝えられた。

#### 資料6 内報<sup>(4)</sup>

昭和二十年十月八日

常務理事殿

審議室主事

○財閥解体問題ニ付大蔵省筋ヨリ

非公式ニ注意アリタルコト

十月六日(土曜日)午後四時半頃大蔵省官房企画課長渡辺武氏ヨリ小役ニ招電アリタルニ因リ直チニ大蔵省(勸業銀行五階)ニ出頭セル処、同氏ヨリ財閥解体問題ニ関シテ非公式ニ概要次ノ如キ好意的注意アリタリ

一、最近「クレマー」大佐等ト接触シテ略々確実ニ攔ミ得タ所デハ、彼等ノ財閥問題ニ対スル考ヘ方ハ

(1)「アンチ・トラスト・ロー」ノ觀念ニ立脚シ、少数者ノ支配ニ依ッテ膨大ナル組織ガ左右サレルノヲ「コンモン・ピープル」ノ為メニ不可トスルコト



(四)財閥ノ本社ニ注目シテキルコト

(一)財閥本社ハ謂ハバ「コーモリ傘」ニシテ、傘下ノ会社中優秀ナルモノノ犠牲ニ於テ劣弱ナルモノヲ維持シ居ルハ不合理ナリ、寧ロ傘ヲハズンテ裸ニシ、「ピュニア・ビシネス」ノ立場デ経営サセルノガ「コンモン・プール」ノ為メニナルト思料シテキルコト  
(二)但シ企業單位ガ大規模ナルコトソレ自体ハ問題ナキコト等ナリ

一、彼等ノ手法ハ今回ノ内務省ニ対スル処置ニ見ルモ明カナル通り、最初抽象的ナ方針ヲ示シ、日本側ガ之ニ即応セル方策ヲ實施セズ又ハグズ／＼シテキルト單刀直入ニ指令ヲ下ス、從ツテ財閥トシテハ至急何等カノ具体案ヲ樹テテ、進ンデ「マッカーサー」司令部当局ト話合ヒヲ進メテハ如何、先手ヲ打ツコトガ肝要ト思フ、（但シ両三日中ニ何等カノ動キガアルト云フ程切迫シテキル訳デハナイガ……）

一、右ハ大藏省ノ意嚮ト云フ意味デハナク、自分ノ非公式ノ御注意デアル、三菱、住友、安田ニモ同様御注意申上ゲル積リ

続イテ次ノ如キ問答ヲ行ヒタリ

瓜生問 「財閥論ノ対象トシテハ大株主タル主人ノ問題ト本社自体ノ問題ト二ツノ面アリト考フルガ、「クレーマー」大佐等ノ狙ヒハ孰レニアリヤ」

渡辺氏答 「財閥本社ガ当面ノ目標ナリ、第二段トシテ大株主ノ問題迄行クカモ知レヌガ、差当リハ本社ノ解体ニアリト見ル」

瓜生問 「三井デモ色々考究中ナルガ、具体案ガ纏ツタラ直接「クレーマー」大佐等ニ打診シテ差支ナキヤ、為念同フ」

渡辺氏答 「結構ナリ」

以上

右ノ次第不取敢同日夜住井常務ニ報告仕候

因ニ渡辺武氏ハ渡辺千冬氏ノ令嗣ニシテ現在子爵家ノ当主タリ、先年ノ物産株（現本社株）分譲並ニ三井本社設置ノ問題ニ付テハ資金調整ノ当該課長トシテ世話ニナリタル方ナリ

財閥本社ノ解体ガ避け難い情勢となつたこの段階で、特別委員会ではどのような議論がなされていたであろうか。一

○月一二、一三兩日にわたって、第七回、第八回特別委員会が開かれていた。戦時下の三井本社設立の経験をかかって、佐々木四郎三井不動産会社社長が特別に参加している。資料7、資料8にみるように、この時期における首脳部の認識は、本社の解体を避けて、その改組転換で事態を乗り切るといふ点で一致しており、また、その見通しについても樂觀的であった。

#### 資料7 第七回特別委員会記録

一〇月一二日 一時 七階小食堂

住井、松本、佐々木、成瀬、菊地、今井、刀根、佐々木四郎氏特別出席

住井  
コノ

①一ツハ全面的解消、技術的ニ困難、アメリカ、日本、（今日ノ東京新聞）

財閥ノ見方モ少シツツ違ッテ来タ、新財閥ガ問題

アメリカデモ誰カ調べタ所三井ガ政權ニアマリニモ無力ナ事ガ判ツタ、軍ヤ政治ト直結シテキナカッタ、直結セルハ日産ヤ中島ト感ジテ来テキルラシク思ハレル、併シ国内カ憂慮ニタヘヌ

②第二ノ問題リオーガナイズ

本社ノ性格ヲカヘルコトモ考ヘラレル

合名ノ実績、有価証券ノ保有投資、経理指導ヲヤメル、純然タルホールディングカンパニーニスル、三井家第一線カラ退ク、皆サンモ御承知、幹部モ変ル、内実外観カヘル、人的ニスツカリ変ヘル、株デハ三井家ノ株ヲ最少限迄下ゲル、理事制ヲヤメル、最少限ニスル、差入重役ヲヤメル

第一段ハ此程度ニ持テ来テ情勢ヲ見テ

第二段ニ迎フベキモノ、誤ッテ新聞ニ出サレルト大変困ル、絶対新聞ニ出ヌヤウ、極秘

率直ニ皆サンノ意見ヲキキ度イ、佐々木氏、改組トノ関連アルニ付キ出席乞フ

佐々木四 改組ノトキ金融三社株ハ三井家ガ買収（大蔵省ノサジエस्टデ）合名ハ物産ニ合併、ソノトキ銀行株ヲ中心ニ三千万円ノ株

式会社ヲ作りソノ中ニ三井同族参加シ、更ニ統制会社ニ仕上ヤウトシタ、ソレガヨイカ大蔵省ニ聞キニ行ツタ所大蔵省ハ敢テ反  
対シナカッタ、ソノ時池田サン、桜内蔵相カラ呼バレ会社ヲ解消シテ新会社ヲ作ルノハ面白クナイ、後日ニ譲ルベシト話  
向井サンニ申上、御尤ナ意見トシテ、ソコデ結局、組合ヲ作り、之ヲ母体トシテト云フコトニナツテ同族組合、事業上ノ組合、

二ツ合併シタヤウナ形ニナツテ総元方ニナツタ  
今酷似ノ状態、小サナ株式会社ニシテ残ルカ、更ニ組合迄引下ケルカ、二ツノ行キ方アリ、解散ト会社トノ中間ニ組合組織ノモ  
ノノアルコト考慮セラル、使用人ノ俸給ノ経費ノ点デハ不利ナガラ、世間体ヲ考ヘルト組合デ行ク手アリ、財産ヲ持ツ組合ト、

表向事業ノ方ノ組合ト二ツ作テクレト云ツテキタノ二ツニナツテ了シタ、  
住井 差当リハ五億ノ会社デ、人ト看板ノ塗変ヲノミ考ヘテキル、無理カ  
佐々木 資本金五億ヲ維持シ得ルヤ、会社ノ持株内容カラ見テヤツテ行ケルカ、ソノ点ニモメスヲ入レネバナラヌノデハナイカ、改組  
ハ内容ニモメスヲ入レネバ一般株主ニ不信用トナル、五億円ノ会社が存在シ得ルヤ、将来行詰ガ見エル

今井 アメリカヘノ話ハ話セバ分ラウ、国内関係ノ点ガ重大  
刀根 昨日ノ支那人モ国内問題ヲ云ツテキタ  
米司令部モ国内輿論ヲ注意、デットシテキロトモ云ツタ、キープクワイエツト、政治、社会、思想ノ変化、此方デ問題ガ起ル、  
労働者ノ事ヲシキリニ云ツテキタ  
財閥問題ハヤツテル事ノ善悪ヨリモ、ソノ機構ガ一般ノ富ノ程度ニ比較シテ問題ニサレテキルノデハナイカ、實際ノ実状ハ二委  
員会(事業転換ノ方途検討)、精機(新事業ハ従来ノ機構デヨイカ検討)、人間ヲ少クマスプロダクション、一ツツノインダス  
トリーガ今迄ノヤウデヤツテ行ケルカ疑問、本社モ同様

①三井自体ハ簡素化、機構変更  
②日本ノ社会情勢ニ対応シテ、三井ノ性格変更ヲ必要トスル、輿論ハ或程度プレジデイス、今説明シテモナカク、ウマク行カ  
ヌ、社会情勢ノ圧力ヲ測定シテ、之位ナラ押切レルト決ツタラ、ソレヨリモ三井自身ガ生キテ行ク、リカバール出来ルヨウニ持テ  
行クコト、ドウシテモ消サナケレバナラヌノナラ、メーフアース  
菊地 世相カラ見レバ何カラネバナラヌ、ヤルトスレバ住井氏ノ話、ソノ外佐々木氏ノ減資ノ問題モ考慮セネバナラヌ  
佐々木 宇垣氏ト昨日会ツタ、「三井ハ内カラ出タト云フデハナイカ」「アマリグズクシテハイカン」ト云フ

融機関ガキクカドウカ、未払込ハ担保力(成)  
事者トシテ株主ニ対スル善良ノ処置(佐四)

第八回特別委員会記録

二〇・一〇・一三 PM・一三・四〇  
於七階小食堂  
井、松本、佐々木、成瀬、菊地、刀根、今井、田代、佐々木、瓜生

(成田知也)  
成田美雄ハ  
新聞ニ出タ前日挨拶ニ来タノガ最後  
産経丹羽ニ電話、一課長ノ私憤デハナイカ、ケシカラン  
同盟ノ若イ記者カ入手、各社ニ回シタ産経ガ他社出スト見テ出シタモノ  
今日ノ朝日、変ナコトヲ書ク  
朝日ニモ何人モ居ル  
物産ノ方ノハ社長ノ命令テヤツテル  
洩レルノハ怪シカラヌ

(永谷三郎)  
昨夜ノ水谷ノ話、私有財産ノ否認ダネ  
戦災者ノ意見、住宅ノ残ツテルノガ癪、残ツテルモノニ特別ノ課税、汽車ノ中デ堂々トヤツテル  
三井サンニ言ツタ、小家ハ焼ケタ、三井ビルハ残ツタ、之ガ縮図ダ(ホントハ水ガモルガ、ヒビガ入り、グラク、ダガ  
又)ト申上ゲ御決意ヲ促シタ訳、之ハ大キナ時ノ流れ、敏感ニ感ジャウトスルカ否カ、敏感是カ、鈍感是カ、  
昨日散会后皆ト話合ツタコト、資本ヲコノマ、デヨイカト云フ問題、未払込ガアルニツラ一ツニ、三ツラ一ツニスレバ四億  
リハシナイカ、三億位ガイ、ノデハナイカ  
増資シナクテモ宜カッタノダ、一緒ニ打テレバイ、ネ

住井 昨日児玉氏見舞ニ出タ

佐々木 警視庁警務課長ガ来テ、特高ヤメタノヲ備ヘ、内ニ赤ガ入ルヨ、限ニ今日新聞ニ出タ云々

住井 何カヤルトシテ、先刻程度ノコトハ如何、三井家第一線引退ハ止ムヲ得ンダラウナ

佐々木、今井 然リ

住井 インベストメントニナリ切ツテ了ツタラ経営ハ十分ノ一ニナリハシナイカ、政治的、社会的会社デナク、クリエントノ

社ニシテ了ヘバ、一〇億デ五分ノ利益ヲアゲ、経営ヲ切ツタレバ、コノ辺迄進ンデヤツテハ、マダ三井家ノ意向ハキイ

菊地 物産株、鉱山株?

住井 ファミリーノ持テル株ノコト

刀根 ソレハ大シタコトニナラヌ、コンパイントオルガナイゼーションガ問題デハナイカ、三井家ノアマウンドガ減ツタダケデ

住井 現金デハクレヌ、公債ダ

刀根 本社ガ下ノ会社トノ関係ガ切レルカドウカ

住井 クレマーニ聞イテ見ヤウヤ、会社ガ公共会社ニナレバ三井ガ四〇パーセント、五〇パーセント持テモイ、ト云フコト

カ、資本ト経営ノ分離……

住井、松本退席

明日続行——午后一時

余談

未払込ヲ減資、減資ニハ債権者全部ノ同意ガ入用、買入減資ニハ持株ヲ売ッテ手当スレバヨイ(菊)

先ヅ借金ヲ返セト云フ(成)

売レバタックスガ重クナル(佐四)

一毎朝売レバヨイ、毎朝鉱山株二〇万ヲ売ッテル(成)

手放セ(菊)

先ヅ性格ヲ変ヘ、順次手放ス(成)

第一段ニ未払込ダケ減資セヨ(佐四)

刀根 何デモナイ、財閥ハドコガイケナイカ一番波風ノアタル所、三井サンガ金持ダト云フ所ヨリ、物産、其他ガ威力ヲ示シテキ

トニアル、ポリシーカラ云ヘバ波風ノ当ラヌヤウニスル為メ物産、鉱山ト三井家トヲ切離ス

三井本社ヲ物、鉱ノ親会社ニセズニヤルコトガ肝要、持株(本社ノ持株—直系会社ノ)ヲ一〇パーセント位ニシテユク、買

資ガ出来ル、漸進的ニ出来ル

三井ノコントロールスル会社デナシニ、三井デインベストシテキル会社ニナレ、直グニ出来ルコトハ人的コントロールヲシ

ツテ、之ヲ説明スルノダマネジメント、アンチトラストローハー一〇パーセントダ

住井 三井高公——一〇パーセント

高長——一〇パーセント——トヤツテモヨイネ

佐々木 本社ノ名前ヲ変ヘタラ如何、例、三井証券会社トシテハ

住井 併シ三井ノ株ヲ持ッタ人ガアル

菊地 物産等モ三井ノ名ヲトルベキダ

住井 ソレハ非常ニ惜シイ、支那デ三井……

菊地 三井サンガ働ケルノハズツト先

刀根 三井物産ト三井家トハ違フンダ、重役ノ任命位ダ、皆両者関連アル如ク連想サレル

佐四 先般改組ノトキ三井物産ノ名ヲ変ヘヨト云フ話アリ、池田サンカラ云ハレタラシイ、向井氏モ變ヘルト云フ、ソノトキ私ハ一

三井家ノ相統ノトキノ大蔵省ノ調べ、三井物産ノノレン五千万円トフミ、之ハトツテオケ、鉱山、化学ハ固定資産アリ、物

有ラズ、池田サンニ話シテ之ヲ助ケタ

菊地 過去ハソノ通り、過去ハ云ハヌコトニシタイ、三井家ト切離スコト社会情勢上必然

佐四 社会情勢ハ或程度進ムガ、日本人ハ又復原スル、大イニ先手先手モ必要ダガ、三井ノ如キ大世帯ハ八分目デヤルガ宜シイ

菊地 モウ三井ニ帰ラナクテモヨイデハナイカ

住井 本社ト云フ名前ハ絶対ニイカヌ、合名ガアッタネ

佐四 合名組織デナケレバイケナイ、今ノ話、三井証券投資株式会社

式会社ヲ作りソノ中ニ三井同族参加シ、更ニ統制会社ニ仕上ヤウトシタ、ソレガヨイカ大蔵省ニ聞キニ行ツタ所大蔵省ハ敢テ反對シナカッタ、ソノ時池田サン、桜内蔵相カラ呼バレ会社ヲ解消シテ新会社ヲ作ルノハ面白クナイ、後日ニ譲ルベシト話

向井サンニ申上、御尤ナ意見トシテ、ソコデ結局、組合ヲ作り、之ヲ母体トシテト云フコトニナツテ同族組合、事業上ノ組合、二ツ合併シタヤウナ形ニナツテ総元方ニナツタ

今酷似ノ状態、小サナ株式会社ニシテ残ルカ、更ニ組合迄引下ゲルカ、二ツノ行キ方アリ、解散ト会社トノ中間ニ組合組織ノモノノアルコト考慮セラル、使用人ノ俸給ノ経費ノ点デハ不利ナガラ、世間体ヲ考ヘルト組合デ行ク手アリ、財産ヲ持ツ組合ト、表向事業ノ方ノ組合ト二ツ作テクレト云ツテキタノ二ツニナツテ了シタ、

住井 差当リハ五億ノ会社デ、人ト看板ノ塗変ヲノミ考ヘテキル、無理カ

佐々木 資本金五億ヲ維持シ得ルヤ、会社ノ持株内容カラ見テヤツテ行ケルカ、ソノ点ニモメスヲ入レネバナラヌノデハナイカ、改組

ハ内容ニモメスヲ入レネバ一般株主ニ不信用トナル、五億円ノ会社ガ存在シ得ルヤ、将来行詰ガ見エル

今井 アメリカヘノ話ハ話セバ分ラウ、国内関係ノ点ガ重大

刀根 昨日ノ支那人モ国内問題ヲ云ツテキタ

米司令部モ国内輿論ヲ注意、デットシテキロトモ云ツタ、キープクワイエツト、政治、社会、思想ノ変化、此方デ問題ガ起ル、労働者ノ事ヲシキリニ云ツテキタ

財閥問題ハヤツテル事ノ善悪ヨリモ、ソノ機構ガ一般ノ富ノ程度ニ比較シテ問題ニサレテキルノデハナイカ、實際ノ実状ハ二委員会（事業転換ノ方途検討）、精機（新事業ハ従来ノ機構デヨイカ検討）、人間ヲ少クマスプロダクション、一ツ一ツノインダストリーガ今迄ノヤウデヤツテ行ケルカ疑問、本社モ同様

①三井自体ハ簡素化、機構変更

②日本ノ社会情勢ニ対応シテ、三井ノ性格変更ヲ必要トスル、輿論ハ或程度プレジデイス、今説明シテモナカノウマク行カヌ、社会情勢ノ圧力ヲ測定シテ、之位ナラ押切レルト決ツタラ、ソレヨリモ三井自身ガ生キテ行ク、リカパー出来ルヨウニ持テ行クコト、ドウシテモ消サナケレバナラヌモノナラ、メーフアース

菊地 世相カラ見レバ何カヤラネバナラヌ、ヤルトスレバ住井氏ノ話、ソノ外佐々木氏ノ減資ノ問題モ考慮セネバナラヌ

佐々木 宇垣氏ト昨日会ツタ、「三井ハ内カラ出タト云フデハナイカ」「アマリグズクシテハイカン」ト云フ

住井 昨日児玉氏見舞ニ出タ

(児玉職次)

佐々木 警視庁警務課長ガ来テ、特高ヤメタノヲ備ヘ、内ニ赤ガ入ルヨ、限ニ今日新聞ニ出タ云々

住井 何かヤルトシテ、先刻程度ノコトハ如何、三井家第一線引退ハ止ムヲ得ンダラウナ

佐々木四、今井 然リ

住井 インベストメントニナリ切ツテ了ツタラ経営ハ十分ノ一ニナリハシナイカ、政治的、社会的会社デナク、クリエントノ為メノ会社ニシテ了ヘバ、一〇億デ五分ノ利益ヲアゲ、経営ヲ切ツタレバ、コノ辺迄進ンデヤツテハ、マダ三井家ノ意向ハキイテキナイ  
菊地 物産株、鉾山株?

住井 ファミリーノ持テル株ノコト

刀根 ソレハ大シタコトニナラヌ、コンバイントオルガナイゼーションガ問題デハナイカ、三井家ノアマウンドガ減ツタダケデハイカン

住井 現金デハクレヌ、公債ダ

刀根 本社ガ下ノ会社トノ関係ガ切レルカドウカ

住井 クレマーニ聞イテ見ヤウヤ、会社ガ公共会社ニナレバ三井ガ四〇パーセント、五〇パーセント持テモイ、ト云フコトニナラヌカ、資本ト経営ノ分離……

住井、松本退席

明日続行——午后一時

余談

未払込ヲ減資、減資ニハ債権者全部ノ同意ガ入用、買入減資ニハ持株ヲ売ツテ手当スレバヨイ(成)

先ヅ借金ヲ返セト云フ(成)

売レバタックスガ重クナル(佐四)

毎朝売レバヨイ、毎朝鉾山株二〇万ヲ売ツテル(成)

手放セ(菊)

先ヅ性格ヲ変ヘ、順次手放ス(成)

第一段ニ未払込ダケ減資セヨ(佐四)

金融機関ガキクカドウカ、未払込ハ担保力（成）  
理事者トシテ株主ニ対スル善良ノ処置（佐<sup>四</sup>）

資料 8 第八回特別委員会記録

二〇・一〇・一三 P.M. 一—三・四〇

於七階小食堂

住井、松本、佐々木、成瀬、菊地、刀根、今井、田代、佐々木<sup>四</sup>、瓜生

住井 （成田知巳）  
成田美雄ハ

今井 新聞ニ出タ前日挨拶ニ来タノガ最後

佐<sup>四</sup> 産経丹羽ニ電話、一課長ノ私憤デハナイカ、ケシカラン

住井 同盟ノ若イ記者カ入手、各社ニ回シタ産経ガ他社出スト見テ出シタモノ

刀根 今日ノ朝日、変ナコトヲ書ク

住井 朝日ニモ何人モ居ル

菊地 物産ノ方ノハ社長ノ命令テヤッテル

佐<sup>四</sup> 洩レルノハ怪シカラヌ

住井 （水谷長三郎）昨夜ノ水谷ノ話、私有財産ノ否認ダネ

佐<sup>四</sup> 戦災者ノ意見、住宅ノ残ツテルノガ癪、残ツテルモノニ特別ノ課税、汽車ノ中デ堂々トヤッテル

住井 三井サンニ言ツタ、小家ハ焼ケタ、三井ビルハ残ツタ、之ガ縮凶ダ（ホントハ水ガモルガ、ヒビガ入り、グラ／＼、ダガ分ラ

又）ト申上ゲ御決意ヲ促シタ訳、之ハ大キナ時ノ流れ、敏感ニ感シヤウトスルカ否カ、敏感是カ、鈍感是カ、

佐<sup>四</sup> 昨日散会后皆ト話合ツタコト、資本ラコノマ、デヨイカト云フ問題、未払込ガアルニツラ一ツニ、三ツラ一ツニスレバ四億ニナ

リハシナイカ、三億位ガイ、ノデハナイカ

住井 増資シナクテモ宜カッタノダ、一緒ニ打テレバイ、ネ

刀根

何デモナイ、財閥ハドコガイケナイカ一番波風ノアタル所、三井サンガ金持ダト云フ所ヨリ、物産、其他ガ威力ヲ示シテキルコトニアル、ポリシーカラ云ヘバ波風ノ当ラヌヤウニスル為メ物産、鉾山ト三井家トヲ切離ス

三井本社ヲ物、鉾ノ親会社ニセズニヤルコトガ肝要、持株(本社ノ持株—直系会社ノ)ヲ一〇パーセント位ニシテユク、買入減資ガ出来ル、漸進的ニ出来ル

三井ノコントロールスル会社デナシニ、三井デインベストシテキル会社ニナレ、直グニ出来ルコトハ人的コントロールヲシテ了ツテ、之ヲ説明スルノダマネージメント、アンチトラストローハー一〇パーセントダ

住井

三井高公——一〇パーセント

高長——一〇パーセント——トヤツテモヨイネ

佐々木

本社ノ名前ヲ変ヘタラ如何、例、三井証券会社トシテハ

住井

併シ三井ノ株ヲ持ッタ人ガアル

菊地

物産等モ三井ノ名ヲトルベキダ

住井

ソレハ非常ニ惜シイ、支那デ三井……

菊地

三井サンガ働ケルノハズツト先

刀根

三井物産ト三井家トハ違フンダ、重役ノ任命位ダ、皆両者関連アル如ク連想サレル

佐々木

先般改組ノトキ三井物産ノ名ヲ変ヘヨト云フ話アリ、池田サンカラ云ハレタラシイ、向井氏モ変ヘルト云フ、ソノトキ私ハ云ツタ

三井家ノ相続ノトキノ大蔵省ノ調べ、三井物産ノノレン五千万円トフミ、之ハトツテオケ、鉾山、化学ハ固定資産アリ、物産ハ有ラズ、池田サンニ話シテ之ヲ助ケタ

過去ハソノ通り、過去ハ云ハヌコトニシタイ、三井家ト切離スコト社会情勢上必然

菊地

社会情勢ハ或程度進ムガ、日本人ハ又復原スル、大イニ先手先手モ必要ダガ、三井ノ如キ大世帯ハ八分目デヤルガ宜シイ

住井

モウ三井ニ帰ラナクテモヨイデハナイカ

佐々木

本社ト云フ名前ハ絶対ニイカヌ、合名ガアツタネ

住井

合名組織デナケレバイケナイ、今ノ話、三井証券投資株式会社

佐々木

合名組織デナケレバイケナイ、今ノ話、三井証券投資株式会社

佐々木

合名組織デナケレバイケナイ、今ノ話、三井証券投資株式会社



刀根 何ノ目的ノタメニ今デイスカスシテキルカ

三井家ノ立場ガ一ツ、三井ノヤツテ来タ事業、事業デ養ハレタ人（多勢ノ人）此両者ヲ被害ヲ少クセネバナラヌ、以上二ツノ立場カラ考ヘレバ、三井家ノ一番困ルノハ収益ヲトルト云フ点、事業ヲヤツテキレバ、本社解体ガキレイニ出来レバ之ガヨイガ……出来ヌ、今一ツハ……

菊地 組織ガアルカラ信用ガアル

佐四 三菱、住友ヨリオクレテ、三井ガ発表スルノニ同ジデハイケナイ、前二者ヨリモ多少出ネバナラヌ、何ダト云フコトニナル、一步<sup>フラス</sup>十ガアルベシ、住友——解散論トノ中間

菊地 法律デヤルト云ツテタノハ

刀根 アンチトラストローダ

住井 昨日西山氏ニ会ツタ、三井、三菱ハ今柵上ダ、今新興財閥ニ注目、ソレハソレ、上手ニヤレバM・H・Qハヨイ、問題ハ国内情勢、カクアルベシトノ信念ニ出發スル、ニユースバリーノアル程ハナイ

住井 住友ハM・H・Qニ何カ云ツテキルラシイ、M・H・Qハ住友ヲアプリシエイトシテキル模様

刀根 自分ノ所ノ建直シ、寧ロ積極的ダ

住井 住友本社ハ残シテオクノカナ？ 本社ノ株ハ外ニ出シテキナイ

佐四 三井ノ株ヲ持テル株主ノ立場ヲ考ヘネバナラヌ

佐四 名前ヲ変ヘルノモ考ヘ物ニナル

住井 八〇円デ売ツテ差金ヲヌク／＼トツテキラレヌ

佐四 住井氏ノ計画ヲ発表シテ、八〇円ヨリ安クナッタラ買入減資ノ話モアルカラ三井サンデ買入レテハ如何、一三五円デ配布一番高イ所デ一四五円ト云フガ売ツテハキナイ人ガ大分アル、六〇円ニモ下ツタラ黙ツチャイナイ、三井サンニ尻ヲ持テ来ル、之ガ即社内ガ大問題トナル、売価格ト程々合セテ損ノ行カヌヤウ策ヲ講ゼネバナラヌ、社内関係ウルサイ

住井 此間本社ハ九五円ニナツタサウダネ、サタデーイブンングポストノ記者——西村君連レテ来タ、パロンニ会ヒ度イト言ツテ来タ、二時、三時ナライ、ト云ツテオイタ

松本氏告別式へ

名前ノシヨックヲ与ヘナクテモ下ルガネ、三菱重工売注文、三万、四万、究極面デモ売レナイ

今井 鐘紡、高崎ノアルコール工場一〇〇屯、三〇万坪、膨大ナ工場、大学ノプロヘツサー作ル、何トカナラヌカト言ツテ来タ、同ジノガ淀川ニモアルトノ事、鐘紡ハ二足三文ノ価値ナレド、ソレハ人絹ガ目的ダツタ、転換モ出来ヌ、

佐田 支那人ノ記者、船ノ話出タ、荷物サヘアレバ船ハ不足ニ非ズ、長岡氏ノ話、石炭ハ一五〇〇万屯——二〇〇〇万屯海上荷運ハ一〇〇〇万屯 内三〇〇万屯以上機帆船 月二一五〇万屯定ラズ月四航海トスレバ四〇万屯アレバヨイ修繕スレバ一六〇万屯アル、渋沢氏金融ノ方カラ見テ悲觀強シト云フガ、船ノ面カラ見テ荷物ノ事頗ル悲觀的ダ

菊地 マダ荷ガ動ク迄ニ行ツテナイノダ

刀根 改組時デナク、一ツ一ツノ企業会社ガ思ヒ切ツタ切開ラヤラネバツブレテ了フ

佐田 人間ノ事ハ三井トシテハ考ヘテヤラネバナラヌ、会社ガ多少損シテモヤラネバナラヌ、先ガ怖イノダ、化学ノ事件……

刀根 住友ハ事業ノ建直ガ眼目、改組ハ二ノ次ダ、ドノ程度ニ温情デ堪ヘラレルカダ、

菊地 会社ガ成立タヌデモ困ル

佐田 事業シテ居ル者カラ見レバ事業ガツブレテハ困ル

住井 三菱ハイヤニ落付イテルネ

佐田 政府ニオツカブセテキルノダ、計画ハタタヌ、郷古氏、「政府ト融合ガ出来サウダ、心配セヌ」ト云フ

住井 政府事業ノヤウニナツテキルノダ、ソレヲ今注目、調べテキル、残ツテルノハ不思議ト見ル、三井ハ三億数千円シカ国家資本ヲ使ツテナイ

佐田 戦前ノ三分ノ一カ四分ノ一ニナツテ残ルンデヤナイカ

住井 今東洋経済ガスツカリ調べ上ゲル

今井 化学ハ技術ガ大切、技術者ノ温存大切、陸海軍ノ人、将来性ノアル人ヲトラネバナラヌト考ヘラレル

住井 ソノ為メニハ一部ヲ鹹首セネバナラヌ

今井 人ノ為、技術ノ発達ノ為メ会社ガ赤字ニナツテモ止ムヲ得ナイト考ヘテキル(他ノ会社トハ多少別)

住井 何レニセヨ鹹首ハ三井ガ卒先シテヤルベキデナイ

今井 最後ノ一線ハ重役カバヘ

佐四 具体案(現実ノ事実)トシテ、人ヲ切ラヌト云ツテモ周リガ切レバ、早く切ツテクレトノ意見モデル、早く切ラヌト他所へ行ケ

ヌト云フコト、半年位ノ内ニ起ル、馬鹿デナイカラ、向フ一年間重役ハポーナスヲ一切トラヌサラーハ食フ最低限ハヤル、ト云フコトヲピシヤット先手ヲ打ツコト必要

刀根、今井、佐々木 然リ

佐四 ポーナスノ方ハ今年ノ暮位マデニヤラネバ——

刀根 マジメニ考ヘテ、会社ガ手ヌルイ事ヲヤツテキテハ共倒レヂヤナイカト見ル意見、寧ロ此際我々自身ノ中デ総辞職ヲヤツテ建直

シラヤレ、重役モヤメテ貰ツテ早クヤラウト云フ空気がアル、会社ノ将来ヲ積極的ニ憂フル声、単ナル温情バカリ考ヘテハイケナイ

住井 社会ノ反感ヲトラズニヤル方法アリ、物産デモ船舶デモ重役ノ辞表ヲ取りマトメツ、アル、親ノ心、子知ラズ、成田ノ考ヘテル

今井 以上ノ事ヲ考ヘテキルガ、内デハ分ラヌ、新聞ニ出テ問題ニナル

刀根 平素ピシ／＼ト幹部ガヤツレバヨカッタ、コノママデイ、ノカトノ焦慮感ベイノ問題、両方

住井 少壮ノ方カラ積極的ニ意見出ル

刀根 支那記者ガ「成田」ト言ツタノニハ驚イタ、僕ノ動機ハスベテ国内ダ

住井 国内ガイツモタタル

住井 水谷ノ話

佐四 インテンシヨナリーアンドマリシアスリーデハ問題ニナラヌ

菊地 社会ノ点カラ見テ三井家引退スベシ

住井 株主ニ何ト説明シヨウカ

佐四 池田サン曾テ三井ノ名ヲトラウトシタ(ドル買ノトキ)、新聞困ル、王子製紙ノ株売、無関係トシタ、藤原氏来テ貰フノハ困ルト云ツタ

菊地 アンブレラノ下デナイコトヲ明示セネバナラヌ、

佐四 三田セルロイド

住井 ストライクハ続出

刀根 三井ノ名ガアレバ三井家ニタタル、三井家ガ事業ヲ見ルカ見ナイカ、今持テル資産ヲ形ヲ変ヘテ財産ヲ保全スルノカ、ソコ迄来レバ名実共ニキレイ、ソコ迄来ルカ否カ、ソノ根本ガ来ネバキマラヌ

佐四 今ハ金ヲ持ツテテ事業ニモタツチシテ来テ、今急ニ三井ノ名前ヲ消シテ了ツテ、金持姿ニナツテ了ヘト云ヘルカ、人間ノ感情、三井サンガ三割位持ツテキレバヤハリ行キマスヨ、ソノナニ世ノ中トノ折衝ガイヤナラ財産ヲ持タナイ迄ダ、三井サンノ感情ダ、ソノナニ問題ガ起ツテバカリモ居マイ

菊地 起ルヨ

成セ氏出席

佐四 鉱山ノストライイクガ始マツテ三井家ニ行ク、高公サンノ所ヘ押カケル、株ヲ持ツテキレバボシイビリテイーハヌケヌ

刀根 一割迄ニスレバイ、ヨ

菊地 名実的ニ株ヲバラマイテ了フ

佐四 戦フベキダト思フ

住井 アイドルリツチト云フコトヲアメリカカデモ問題ニスル

刀根 アクティブリツチカラアイドルリツチニナレバ事毎ニフリクシヨシハ来マイ

住井 税金ソノ他デ続キハシナイ

菊地 名前思切ツテ変ヘヨウヂヤナイカ、暫ク引退スルガヨイ、実際三井家ガ、コントロールシナイデスムヨウナ形ハドウカ

住井 憲法改正モ問題ニナルトキダカラ

昨日或程度西山君ニ話シタ、大蔵大臣、商工大臣ト会談シテソノ材料ヲ昨日西山蔵相ニ渡シタ、

私ノコノ線ヲ引ク、コノ退却ノ線ヲ云ツタ、コノ線迄行ケバモハヤ財閥デナイト説明シタ、フリーニナル、クレマーハソコ迄言ハヌ、ミスアンダースタンディングシテキル、ト外紙ノ記者ハ云フ、一寸甘ク見タ、昨日ノ水谷ノ演説ヲ聞イテ、ヤハリ生命線デアリカネバト考ヘテキル、ヤルナラ早クシナイト政治（総選挙）ガ大変、種ニサレルト大変、ソノ前ニヤラネバナラヌ

佐四 マゴ／＼シテキルト内カラ火ガフク

刀根 人ノ名前、会社名ハスグヤレル、方針ハスグ発表出来ル

住井 社長ニ切上御帰京願フ積リ

式会社ヲ作りソノ中ニ三井同族参加シ、更ニ統制会社ニ仕上ヤウトシタ、ソレガヨイカ大蔵省ニ聞キニ行ツタ所大蔵省ハ敢テ反對シナカッタ、ソノ時池田サン、桜内蔵相カラ呼バレ会社ヲ解消シテ新会社ヲ作ルノハ面白クナイ、後日ニ讓ルベシト語

向井サンニ申上、御尤ナ意見トシテ、ソコデ結局、組合ヲ作り、之ヲ母体トシテト云フコトニナツテ同族組合、事業上ノ組合、二ツ合併シタヤウナ形ニナツテ総元方ニナツタ

今酷似ノ状態、小サナ株式会社ニシテ残ルカ、更ニ組合迄引下ゲルカ、二ツノ行キ方アリ、解散ト会社トノ中間ニ組合組織ノモノノアルコト考慮セラル、使用人ノ俸給ノ経費ノ点デハ不利ナガラ、世間体ヲ考ヘルト組合デ行ク手アリ、財産ヲ持ツ組合ト、表向事業ノ方ノ組合ト二ツ作テクレト云ツテキタノ二ツニナツテ了シタ、

住井 差当リハ五億ノ会社デ、人ト看板ノ塗変ヲノミ考ヘテキル、無理カ

佐々木 資本金五億ヲ維持シ得ルヤ、会社ノ持株内容カラ見テヤツテ行ケルカ、ソノ点ニモメスヲ入レネバナラヌノデハナイカ、改組

ハ内容ニモメスヲ入レネバ一般株主ニ不信用トナル、五億円ノ会社が存在シ得ルヤ、将来行詰ガ見エル

今井 アメリカヘノ話ハ話セバ分ラウ、国内関係ノ点ガ重大

刀根 昨日ノ支那人モ国内問題ヲ云ツテキタ

米司令部モ国内輿論ヲ注意、デットシテキロトモ云ツタ、キープクワイエツト、政治、社会、思想ノ変化、此方デ問題ガ起ル、労働者ノ事ヲシキリニ云ツテキタ

財閥問題ハヤツテル事ノ善悪ヨリモ、ソノ機構ガ一般ノ富ノ程度ニ比較シテ問題ニサレテキルノデハナイカ、實際ノ実状ハ二委員会(事業転換ノ方途検討)、精機(新事業ハ従来ノ機構デヨイカ検討)、人間ヲ少クマスプロダクション、一ツ一ツノインダストリーガ今迄ノヤウデヤツテ行ケルカ疑問、本社モ同様

①三井自体ハ簡素化、機構変更

②日本ノ社会情勢ニ対応シテ、三井ノ性格変更ヲ必要トスル、輿論ハ或程度プレジデイス、今説明シテモナカクウマク行カヌ、社会情勢ノ圧力ヲ測定シテ、之位ナラ押切レルト決ツタラ、ソレヨリモ三井自身ガ生キテ行ク、リカパー出来ルヨウニ持テ行クコト、ドウシテモ消サナケレバナラヌモノナラ、メーフアース

菊地 世相カラ見レバ何カラネバナラヌ、ヤルトスレバ住井氏ノ話、ソノ外佐々木氏ノ減資ノ問題モ考慮セネバナラヌ

佐々木 宇垣氏ト昨日会ツタ、「三井ハ内カラ出タト云フデハナイカ」「アマリグズシテハイカン」ト云フ

住井 昨日児玉氏見舞ニ出タ

(見玉贈次)

佐々木 警視庁警務課長ガ来テ、特高ヤメタノヲ備へ、内ニ赤ガ入ルヨ、限ニ今日新聞ニ出タ云々

住井 何カヤルトシテ、先刻程度ノコトハ如何、三井家第一線引退ハ止ムヲ得ンダラウナ

佐々木<sup>四</sup>、今井 然リ

住井 インベストメントニナリ切ツテ了ツタラ経営ハ十分ノ一ニナリハシナイカ、政治的、社会的会社デナク、クリエントノ為メノ会社ニシテ了ヘバ、一〇億デ五分ノ利益ヲアゲ、経営ヲ切ツタレバ、コノ辺迄進ンデヤツテハ、マダ三井家ノ意向ハキイテキナイ

菊地 物産株、鉾山株?

住井 フアミリーノ持テル株ノコト

刀根 ソレハ大シタコトニナラヌ、コンバイントオルガナイゼーションガ問題デハナイカ、三井家ノアマウンドガ減ツタダケデハイカン

住井 現金デハクレヌ、公債ダ

刀根 本社ガ下ノ会社トノ関係ガ切レルカドウカ

住井 クレマーニ聞イテ見ヤウヤ、会社ガ公共会社ニナレバ三井ガ四〇パーセント、五〇パーセント持テモイ、ト云フコトニナラヌカ、資本ト経営ノ分離……

住井、松本退席

明日続行——午后一時

余談

未払込ヲ減資、減資ニハ債権者全部ノ同意ガ入用、買入減資ニハ持株ヲ売ツテ手当スレバヨイ(成)

先ヅ借金ヲ返セト云フ(成)

売レバタックスガ重クナル(佐<sup>四</sup>)

毎朝売レバヨイ、毎朝鉾山株二〇万ヲ売ツテル(成)

手放セ(菊)

先ヅ性格ヲ変へ、順次手放ス(成)

第一段ニ未払込ダケ減資セヨ(佐<sup>四</sup>)

金融機関ガキクカドウカ、未払込ハ担保力（成）  
理事者トシテ株主ニ対スル善良ノ処置（佐四）

資料 8 第八回特別委員会記録

二〇・一〇・一三 P.M. 一—三・四〇

於七階小食堂

住井、松本、佐々木、成瀬、菊地、刀根、今井、田代、佐々木<sup>四</sup>、瓜生

住井  
成田<sup>（成田知七）</sup>美雄<sup>ハ</sup>

今井 新聞ニ出タ前日挨拶ニ来タノガ最後

佐四 産経丹羽ニ電話、一課長ノ私憤デハナイカ、ケシカラン

住井 同盟ノ若イ記者カ入手、各社ニ回シタ産経ガ他社出スト見テ出シタモノ

刀根 今日ノ朝日、変ナコトヲ書ク

住井 朝日ニモ何人モ居ル

菊地 物産ノ方ノハ社長ノ命令テヤッテル

佐四 洩レルノハ怪シカラヌ

住井 昨夜ノ水谷<sup>（水谷良三郎）</sup>ノ話、私有財産ノ否認ダネ

佐四 戦災者ノ意見、住宅ノ残ツテルノガ癪、残ツテルモノニ特別ノ課税、汽車ノ中デ堂々トヤッテル

住井 三井サンニ言ツタ、小家ハ焼ケタ、三井ビルハ残ツタ、之ガ縮凶ダ（ホントハ水ガモルガ、ヒビガ入り、グラ〜、ダガ分ラ

ヌ）ト申上ゲ御決意ヲ促シタ訳、之ハ大キナ時ノ流れ、敏感ニ感シヤウトスルカ否カ、敏感是カ、鈍感是カ、

佐四 昨日教會后皆ト話合ツタコト、資本ラコノマ、デヨイカト云フ問題、未払込ガアルニツラ一ツニ、三ツラ一ツニスレバ四億ニナ

リハシナイカ、三億位ガイ、ノデハナイカ

住井 増資シナクテモ宜カッタノダ、一緒ニ打テレバイ、ネ

刀根

何デモナイ、財閥ハドコガイケナイカ一番波風ノアタル所、三井サンガ金持ダト云フ所ヨリ、物産、其他ガ威力ヲ示シテキルコトニアル、ポリシーカラ云ヘバ波風ノ当ラヌヤウニスル為メ物産、鉦山ト三井家トヲ切離ス

三井本社ヲ物、鉦ノ親会社ニセズニヤルコトガ肝要、持株(本社ノ持株—直系会社ノ)ヲ一〇パーセント位ニシテユク、買入減資ガ出来ル、漸進的ニ出来ル

三井ノコントロールスル会社デナシニ、三井デインベストシテキル会社ニナレ、直グニ出来ルコトハ人的コントロールヲシテ了ツテ、之ヲ説明スルノダマネージメント、アンチトラストローハ一〇パーセントダ

住井

三井高公——一〇パーセント

高長——一〇パーセント——トヤツテモヨイネ

佐々木

本社ノ名前ヲ変ヘタラ如何、例、三井証券会社トシテハ

住井

併シ三井ノ株ヲ持ッタ人ガアル

菊地

物産等モ三井ノ名ヲトルベキダ

住井

ソレハ非常ニ惜シイ、支那デ三井……

菊地

三井サンガ働ケルノハズツト先

刀根

三井物産ト三井家トハ違フンダ、重役ノ任命位ダ、皆両者関連アル如ク連想サレル

佐々木

先般改組ノトキ三井物産ノ名ヲ変ヘヨト云フ話アリ、池田サンカラ云ハレタラシイ、向井氏モ変ヘルト云フ、ソノトキ私ハ云ツ

タ

三井家ノ相続ノトキノ大蔵省ノ調べ、三井物産ノレン五千万円トフミ、之ハトツテオケ、鉦山、化学ハ固定資産アリ、物産ハ有ラズ、池田サンニ話シテ之ヲ助ケタ

菊地

過去ハソノ通り、過去ハ云ハヌコトニシタイ、三井家ト切離スコト社会情勢上必然

佐々木

社会情勢ハ或程度進ムガ、日本人ハ又復原スル、大イニ先手先手モ必要ダガ、三井ノ如キ大世帯ハ八分目デヤルガ宜シイ

菊地

モウ三井ニ帰ラナクテモヨイデハナイカ

住井

本社ト云フ名前ハ絶対ニイカヌ、合名ガアッタネ

佐々木

合名組織デナケレバイケナイ、今ノ話、三井証券投資株式会社



刀根 何ノ目的ノタメニ今デイスカスシテキルカ

三井家ノ立場ガ一ツ、三井ノヤツテ来タ事業、事業デ養ハレタ人（多勢ノ人）此両者ヲ被害ヲ少クセネバナラヌ、以上二ツノ立場カラ考ヘレバ、三井家ノ一番困ルノハ収益ヲトルト云フ点、事業ヲヤツテキレバ、本社解体ガキレイニ出来レバ之ガヨイガ……出来ヌ、今一ツハ……

菊地 組織ガアルカラ信用ガアル

佐四 三菱、住友ヨリオクレテ、三井ガ発表スルノニ同ジデハイケナイ、前二者ヨリモ多少出ネバナラヌ、何ダト云フコトニナル、一步<sup>フラス</sup>ガアルベシ、住友——解散論トノ中間

菊地 法律デヤルト云ツテタノハ

刀根 アンチトラストローダ

住井 （西出也）昨日西山氏ニ会ツタ、三井、三菱ハ今柵上ダ、今新興財閥ニ注目、ソレハソレ、上手ニヤレバM・H・Qハヨイ、問題ハ国内情

住井 住友ハM・H・Qニ何カ云ツテキルラシイ、M・H・Qハ住友ヲアプリシエートシテキル模様

刀根 自分ノ所ノ建直シ、寧ろ積極的ダ

住井 住友本社ハ残シテオクノカナ？ 本社ノ株ハ外ニ出シテキナイ

佐四 三井ノ株ヲ持テル株主ノ立場ヲ考ヘネバナラヌ

佐四 名前ヲ変ヘルノモ考ヘ物ニナル

住井 八〇円デ売ツテ差金ヲヌク／＼トツテキラレヌ

佐四 住井氏ノ計画ヲ発表シテ、八〇円ヨリ安くナッタラ買入減資ノ話モアルカラ三井サンデ買入レテハ如何、一三五円デ配布一番高

住井 所デ一四五円ト云フガ売ツテハキナイ人ガ大分アル、六〇円ニモ下ツタラ黙ツチャイナイ、三井サンニ尻ヲ持テ来ル、之ガ即

社内ガ大問題トナル、売出価格ト程々合セテ損ノ行カヌヤウ方策ヲ講ゼネバナラヌ、社内関係ウルサイ

住井 此間本社ハ九五円ニナツタサウダネ、サタデーイブニングポストノ記者——西村君連レテ来タ、バロンニ会ヒ度イト言ツテ来

タ、二時、三時ナライ、ト云ツテオイタ

松本氏告別式へ

松本氏告別式へ

名前ノシヨックヲ与ヘナクテモ下ルガネ、三菱重工売注文、三万、四万、究極面デモ売レナイ

今井 鐘紡、高崎ノアルコール工場一〇〇屯、三〇万坪、膨大な工場、大学ノプロヘツサー作ル、何トカナラヌカト言ッテ来タ、同ジノガ淀川ニモアルトノ事、鐘紡ハ二足三文ノ価値ナレド、ソレハ人絹ガ目的ダッタ、転換モ出来ヌ、

佐野 支那人ノ記者、船ノ話出タ、荷物サヘアレバ船ハ不足ニ非ズ、長岡氏ノ話、石炭ハ一五〇〇万屯——二〇〇〇万屯海上荷運ハ一〇〇〇万屯 内三〇〇万屯以上機帆船 月二一五〇万屯定ラズ月四航海トスレバ四〇万屯アレバヨイ修繕スレバ一六〇万屯アル、渋沢氏金融ノ方カラ見テ悲観強シト云フガ、船ノ面カラ見テ荷物ノ事頗ル悲観的ダ

菊地 マダ荷ガ動ク迄ニ行ッテナイノダ

刀根 改組時デナク、一ツ一ツノ企業会社ガ思ヒ切ッタ切開ヲヤラネバツブレテ了フ

佐野 人間ノ事ハ三井トシテハ考ヘテヤラネバナラヌ、会社ガ多少損シテモヤラネバナラヌ、先ガ怖イノダ、化学ノ事件……

刀根 住友ハ事業ノ建直ガ眼目、改組ハ二ノ次ダ、ドノ程度ニ温情デ堪ヘラレルカダ、

菊地 会社ガ成立タヌデモ困ル

佐野 事業シテ居ル者カラ見レバ事業ガツブレテハ困ル

住井 三菱ハイヤニ落付イテルネ

佐野 政府ニオツカブセテキルノダ、計画ハタタヌ、郷古氏、「政府ト融合ガ出来サウダ、心配セヌ」ト云フ

住井 政府事業ノヤウニナッテキルノダ、ソレヲ今注目、調べテキル、残ッテルノハ不思議ト見ル、三井ハ三億数千円シカ国家資本ヲ使ッテナイ

佐野 戦前ノ三分ノ一カ四分ノ一ニナッテ残ルンデヤナイカ

住井 今東洋経済ガスツカリ調べ上ゲル

今井 化学ハ技術ガ大切、技術者ノ温存大切、陸海軍ノ人、将来性ノアル人ヲトラネバナラヌト考ヘラレル

住井 ソノ為メニハ一部ヲ誠首セネバナラヌ

今井 人ノ為、技術ノ発達ノ為メ会社ガ赤字ニナッテモ止ムヲ得ナイト考ヘテキル(他ノ会社トハ多少別)

住井 何レニセヨ誠首ハ三井ガ卒先シテヤルベキデナイ

今井 最後ノ一線ハ重役カバヘ

佐四 具体案(現実ノ事実)トシテ、人ヲ切ラヌト云ツテモ周リガ切レバ、早く切ツテクレトノ意見モデル、早く切ラヌト他所へ行ケ

ヌト云フコト、半年位ノ内ニ起ル、馬鹿デナイカラ、向フ一年間重役ハポーナスヲ一切トラヌサラーハ食フ最低限ハヤル、ト云フコトヲピシヤット先手ヲ打ツコト必要

刀根、今井、佐々木 然リ

佐四 波ーナスノ方ハ今年ノ暮位マデニヤラネバ――

刀根 マジメニ考ヘテ、会社ガ手ヌルイ事ヲヤツテキテハ共倒レヂヤナイカト見ル意見、寧ロ此際我々自身ノ中デ総辞職ヲヤツテ建直シヲヤレ、重役モヤメテ貰ツテ早クヤラウト云フ空気がアル、会社ノ将来ヲ積極的ニ憂フル声、単ナル温情バカリ考ヘテハイケナイ

住井 社会ノ反感ヲトラズニヤル方法アリ、物産デモ船舶デモ重役ノ辞表ヲ取りマトメツ、アル、親ノ心、子知ラズ、成田ノ考ヘテル以上ノ事ヲ考ヘテキルガ、内デハ分ラヌ、新聞ニ出テ問題ニナル

今井 平素ピシクト幹部ガヤツレバヨカッタ、コノママデイ、ノカトノ焦慮感ベイノ問題、両方

刀根 少壮ノ方カラ積極的ニ意見出ル

住井 支那記者ガ「成田」ト言ツタノニハ驚イタ、僕ノ動機ハスベテ国内ダ

刀根 国内ガイツモタタル

住井 水谷ノ話

佐四 インテンシヨナリーアンドマリシアスリーデハ問題ニナラヌ

菊地 社会ノ点カラ見テ三井家引退スベシ

住井 株主ニ何ト説明シヨウカ

佐四 池田サン曾テ三井ノ名ヲトラウトシタ(ドル買ノトキ)、新聞困ル、王子製紙ノ株売、無関係トシタ、藤原氏来テ貰フノハ困ルト云ツタ

菊地 アンブレラノ下デナイコトヲ明示セネバナラヌ、

佐四 三田セルロイド

住井 ストライクハ続出

刀根 三井ノ名ガアレバ三井家ニタタル、三井家ガ事業ヲ見ルカ見ナイカ、今持テル資産ヲ形ヲ変ヘテ財産ヲ保全スルノカ、ソコ迄来レバ名実共ニキレイ、ソコ迄来ルカ否カ、ソノ根本ガ来ネバキマラヌ

佐四 今ハ金ヲ持ツテテ事業ニモタツチシテ来テ、今急ニ三井ノ名前ヲ消シテ了ツテ、金持姿ニナツテ了ヘト云ヘルカ、人間ノ感情、三井サンガ三割位持ツテキレバヤハリ行キマスヨ、ソノナニ世ノ中トノ折衝ガイヤナラ財産ヲ持タナイ迄ダ、三井サンノ感情ダ、ソノナニ問題ガ起ツテバカリモ居マイ

菊地 起ルヨ

成セ氏出席

佐四 鉾山ノストライイクガ始マツテ三井家ニ行ク、高公サンノ所ヘ押カケル、株ヲ持ツテキレバポシイビリテイーハヌケヌ

刀根 一割迄ニスレバイ、ヨ

菊地 名実的ニ株ヲバラマイテ了フ

佐四 戦フベキダト思フ

刀根 アイドルリツチト云フコトヲアメリカデモ問題ニスル

住井 アクティブリツチカラアイドルリツチニナレバ事毎ニフリクシヨシハ来マイ

刀根 税金ソノ他デ続キハシナイ

住井 名前思切ツテ変ヘヨウヂヤナイカ、暫ク引退スルガヨイ、実際三井家ガ、コントロールシナイデスムヨウナ形ハドウカ

菊地 憲法改正モ問題ニナルトキダカラ

住井 昨日或程度西山君ニ話シタ、大蔵大臣、商工大臣ト会談シテソノ材料ヲ昨日西山蔵相ニ渡シタ、

私ノコノ線ヲ引ク、コノ退却ノ線ヲ云ツタ、コノ線迄行ケバモハヤ財閥デナイト説明シタ、フリーニナル、クレマーハソコ迄言ハヌ、ミスアンダースタンディングシテキル、ト外紙ノ記者ハ云フ、一寸甘ク見タ、昨日ノ水谷ノ演説ヲ聞イテ、ヤハリ生命線デアリカネバト考ヘテキル、ヤルナラ早クシナイト政治（総選挙）ガ大変、種ニサレルト大変、ソノ前ニヤラネバナラヌ

佐四 マゴノシテキルト内カラ火ガフク

刀根 人ノ名前、会社名ハスグヤレル、方針ハスグ発表出来ル

住井 社長ニ切上御帰京願フ積リ

佐四 家憲が問題、財産ノ方モ問題

住井 家憲ハ一度奉聴シタノニ、門外不出ダトテ読ンデモ居ナイ

佐四 本社ニイ、名前アリヤ、ナカ／＼ナイ

刀根 構想ノ全貌ヲ早く声明スレバヨイ

佐四 実際ニハ方々打ツカル

成瀬 三協——、三友——ト云フ案アレド、三ハツカヌ方宜シイト思フ

刀根 共有ノ組織ハドウカト思フインデイビジュアルニ持ツコトニセヌトイカヌ、本質的ニフューダリズム

佐四 家憲ノ改正ガ必要ニナル

成瀬 然リ、三井家ノ憲法改正ダ

佐四 益田サンノトキ家憲作ツタ、中上川氏「作ツテモ一〇年持タヌ」ト云ツタ、益田サン「ソレデヨイ」ト云ツタ、池田サン「古

イ」ト云ツタ、合併ノトキ六ヶシイ問題起リ、別々ニシヨウト意見起ツタラ、高棟サンガ絶対反対サレタノデ、オヂャンニナツタ、ソレデ総元方ト云フ組合ニナツタノダ、一人デモ反対ガアルト出来ナイ仕組、持分——株、評価困難

成セ 三井家ハバラ／＼ニナリ落ブレル、ヤムヲ得ナイ

菊地 賠償ハ持テル者ヨリトル以外ニナイ

成セ 一般以上ニヒドイ事ニナル

住井 ヨクヤツタ（思ヒ切ツテ）ト云フ議論モ出ル反面ニ三井家ハ困難的ナ大負担ノ立場ヨリ逃避スルノダ、ト云フ議論ガ出ルダラウ

ネ

佐四 時流ハ、ヤラナクテモ宜カッタト云フノガ後デ見ルトヨクアル、物事ハ徳川サンデヤナイガ十分ノ内、七、八分ガヨイ所ダ、全

部議論ガ出尽シタ所デ七、八分ガヨロシイ、自分ノ体験、三井ノ全部ノ名前ヲトツテ了フ如キ、上述ノ問題ガ起ルカモ知レヌ、声明ノ場合ハヨク氣ヲ付ケヨ、取返シガツカヌコトアリ

菊地 一一ノ直系ガ三井デズラリ並ベバ

住井 帝国銀行——アト二三年ハシマッタト思ツタガ今日ハヨクアツタ、永イ将来ヲ見ネバナラヌ

佐四 世ノ中カラ拍手喝采ヲ博スルコトヲ目当ニスベカラズ、批評ハ色々アルニ相違ナイ、コンサープカラモラデイカルカラモ一歩進

ミ、更ニ二歩進メ

住井 一四、三〇〇人ノ株主(本社)ノ事ガ氣ニカ、ル、三井ト共ニ運命ヲ共ニスルナライ、ガ、地獄ヘノ道連レニシ度クハナイ

佐四 東洋証券トシタラ株主承知スマイ

菊地 本社ハ三井デヨイ

成セ、佐々木<sup>四</sup> イヤ本社ガ問題

佐四 三井サンガ一家デ本社ノ株ヲ沢山持テコントロールスルコトニ問題ガアル、社会問題ガ起ルノハ覚悟ノ前デ事業ヲヤロウト云

フノダ、或限度ハ覚悟シナクテハナラヌ、昭和ノ初メ共產主義デ住友モ非常ニ苦シンダ

菊地 三井サンガ受ケテ立ツ覚悟ガアルナラ事業ヲヤルモ可

刀根 住井サンガ三井家ニアドバイズルトキ、名実共ニ三井家ガ事業面カラ手ヲ引クカ、多少トモ残スカ

佐四 時勢ハ変ル、サウ一遍ニ思ヒ切ラヌトモヨカラウ

刀根 ラインノ引方デ違ッテクル

佐四 三井家ノ将来ノ永久性迄考ヘテモナカク判ラヌ、当面ノ所ヲ見ルノガ精々、住井サンノ立場ハ重大、階程ガアル

松本氏出席

刀根 行キ方ヲ何段ニモ分ケテ三井サンニ話ス手モアルネ

佐四 意見ハ勝手ダガ、住井サンガ全責任ヲ以テ立ツノハ重大

住井 ソノ線ハ幾ツモアルヤウデ、タントハナインダヨ

清算トコノマ、ヤルコトトノ中間、之ヲ考ヘテキル①三井家ノ第一線引退、②株式ヲ少クスル、③統理指導ヲヤメル、ドノ一ツヲハズシテモイカン、一緒ダ

①ダケデハ通ラヌ

②之モ不可分

③

三ツ一緒デ第一案

第二案ハ全面的解散、両者ノ外ニアリヤ

不可分

佐四 ソレハ最低線、ソノ外ニ、各社ノ株ヲ売ルカドウカ、名前（各社ノ）ヲ変ヘルカドウカ、ト云フノガマダ考ヘル余地アリト云フ

ノダ、各社ライインデペンデントニセネバ一貫シナイ

刀根 主観的判断デハイカン、客観的ニ判断セネバナラヌ

佐四 本社ノ所有スル各社株ヲ一〇パーセントニ引下ルコト迄言フノカ

住井 言フ言ハヌヨリモ先ニ腹ヲ決メネバナラヌト云フ訳ダ

刀根 ソコ迄行ケバ三井ノ株ヲ二割三割持ツヨリ一割以下ニ下ゲ分散シタ方可ナリ

住井 本社ノ株ヲ三井家ガ五割六割持ツキテモ、本社ガ指導権ガナケレバインデペンデナカラウカ、却テ各社ノ株ヲ相当持ツ方ガ實際ハトクカネ

佐四、成瀬 理クツハサウダガ、實際ハイカヌ

成瀬 何割トカ何トカ云ハヌニ支配セヌト云ヘバヨイ、方針ヲ云ヘバヨイ

松本 一〇〇パーセント持テル株ヲ一〇パーセントニ實際ニハドウシテスルノダ、本社株デ三井家ノ所有スルモノハ処置ガ案ダガ

刀根 三井家ハドコデ縁ヲ切ルカ、家ガ本社ノ株ヲ一〇パーセントモタヌトモ本社ガ各社ノ八〇パーセント、九〇パーセント持テバ

コントロール出来ル、

成セ サウ神経質ニ考ヘヌトモヨカロウ

刀根 議論ダ

佐四 帝銀四割持ツキテモ口ハキカヌ

松本 本社ノ定款カラ統理指導ヲトレバヨイ、ソコデ縁ガ切レルト思フ、一〇パーセント云々言フ要ナシ

刀根 M・H・Qハソレデヨイガ、国内ノ波風ヲ三井家ガ避ケルト云フナラ、物産、鉱山等々ノ経営ニタツチセズ、タダ株ヲ持ッテル

財産家、ソノ株ヲ持ッテキル保全会社ニナル、役員モカレコレ云ハヌ、減資モスル、持株ヲ逐次処分、ト云フ話カラ一〇パーセ

ントト云フ話ガ出タガ、一〇パーセントハエッセンシャルナ問題デハナイ

松本 本社定款ヲ変ヘテ目的ガ達セラレヨウ

佐四 ソレデ解決シナケレバ先ヘ進メバヨイ

田代 六割持ツキテモマジヨリテイヲ行使セヌト云ヘバ納得シヤシナイカ

住井 菊地氏ノ意見「本社ノ三井家所有株モ減サネバナラヌ」、精機方正ノ利益ヲトツタトキ三井家ニルイガ及ブカラ、一般株主ノ

利益ヲ無視スルテフ非難ヲ三井家ノ為、ドウ説明スルカ

佐四 株主總會ヲ前ニ發表シ得ルヤ、(定款變更ハ議案)

住井 發表技術ハ問題、法律的ニ研究シヨウ、方針ト云ヘバヨイ

菊地 三井家ノ御決心ガ大切

住井 内外ノ荒浪、憲法改正、皇室ニモ色々來ル際、三井家ノ決心ヲ求メテキル

佐四 三井家ノタメ一般株主ヲペチャンコニスルトノ議論ハ出ル、「統理指導ヲトルコト」、ヤラネバナラヌ問題ダガ、株主ノ立場モ考

ヘネバナラヌ

成七 コノマ、進メバ一般株主モ迷惑ヲ受ケル

佐四 M・H・Qニ負ハセロ

菊地 財閥モ後々ヤリニククナル

成七 M・H・Qカラ命令ガ出テキナイ

佐四 三菱ハ外ニハアマリ出テキナイ、

三井ハ大分外ニ出テキル、大キナオ世話ト云フコトニナル

住井 大株主ノ信念カラ発足、併シ押付ケラレタ、大株主ガ時勢ノ為メニ売ルノハ自由ダネ

佐四 小數者ノ利益、大多數ノ利益トノ問題

住井 立グサレデ行クノガ小株主ノ利益カ、時勢ニ応ジドラスチックナ改革ヲスルノガ小株主ノ利益カ、数字的ニハ分ラヌガ、積極的

佐四 ニハ統理ハ時勢上許サレヌ、消極的ニハコンパクトナモノニナリ、節費節約出來ル

社員ガ株ヲ持テツケルダラウカ

菊地 カ、ル大變事ニ際会シ、プラス一〇ガプラス五ニナルノハ觀念スベシ

佐四 併シ退職金ヲ担保ニ借金シテ持テルノダ

菊地 ダカラ早ク売レト云ツテキルノダ

住井 永久責任ハ負ヘヌ、一応ソノ責任ハ解除



菊地 チャンススハアツタ、取上ル要ナシ

佐四 退職一時金ト結ンデアルカラ問題ダ

住井 鉱山株、物産株、モウカルモノハ売ツテ了ツテ、今本社ノ株ガ値下リダト云フノハ不可、埋メテキナイノカ

菊地 多少返シテハキル、信託ガ困ルノデ、借リササレテキルノダ

佐四 三井バカリハ売ツテキナイト云フ、集團的ニハウルサイ

住井 根拠ハ余リ強クナイネ

皆 大嵐ダモノ

佐四 金融方面ヘノ諒解ハ如何

成セ 債権モ生キルヤウニ考ヘテキルノダカラヨイ、株主ガ一番問題、三井家ノ為デナク時勢ノ為ダトハ皆モ判ラウ

住井 三井家ノ所有株ヲ預金部デ買上ゲル案ヲ、預金部デ買上ゲルコトモ考ヘラレテキルト云フ、株ヲ売ルノハ經濟界ニ悪影響ナキヤ

ウグラジュアリーニ売ルト云フ積リ

刀根 四囲ノ情勢ハモットヒドイカモ知レヌ

住井 四囲共同管理ノ方ニ行クネ、ソ連ノインフリュエンスハ負レヌネ

刀根 共同管理ニナル前ニM・H・Qガプロジェクトヲ実行

松本 イヤ、諮問ノミダ、キ、オクノミダ

この連日開かれた特別委員会を経て、ほぼ三井本社の改革案がまとまったと考えられる。一〇月一六日、住井三井本社常務は、三井本社を訪れたクレーマー大佐に本社改革案について意向を打診したようである。瓜生「覚書」によると、「先方、完全解体ヲ主張」とある。同じ一六日の朝、瓜生は、大蔵省池田主税局長、同式村金融局長の兩人に会い、つぎのような大蔵省筋の情報をえていた。

一、財閥問題ニ付テハ財閥ノ自発的改造ヲ希望シ、期待スル、連合軍側カラ指図サレル前ニ先手ヲ打ツコトガ望マシ

イ

一、財閥問題が国内問題ノ観点カラ重大ナ考慮ヲ要スルコトハ疑ナイ、国内ノ圧力デツブサレル位ナラ、寧ロ此際連合軍側ノ意向デ解体スル方ガ諸事案デハナイダラウカ

一〇月一七日、住井三井本社常務は、吉田茂外務大臣に会い、三井本社改革案への協力を依頼している。<sup>(8)</sup> 瓜生は、この間の情報として、「財閥問題に關シ幣原首相及ビ吉田外相ハ比較的樂觀の見解ヲ持シ『問題ハ三井、三菱等デナクテ中島、鮎川ダ』ト見ルニ反シ、渋沢蔵相及ビ小笠原商相ハ既成財閥ヲモ含メテ問題ヲシーリアスニ見テキルトノ情報アリ」と記録している。<sup>(9)</sup>

一〇月一八日、住井常務は、成案となつた三井本社改革案を、三井家同族協議會、三井本社取締役會へ報告し、了承をえている。この時の本社改革案の全文は明らかでないが、その要旨はつぎのようであつた。<sup>(10)</sup>

一、三井家が第一線から退却すること。

二、本社の最高幹部も退却する。

三、本社持株の大部分を解放する。

四、關係会社を独立させる。

五、本社を弱体化した純然たる持株会社とする。

六、理事制度をやめる。

さらに、同日、住井常務らはその三井本社改革案を、大藏省官邸で、渋沢大藏大臣、小笠原商工大臣に提示し、政府の否定的な意向を確認している。<sup>(11)</sup> この時、三井首脳部は、本社改革の無理なこと、本社解体が不可避であることを自覚したようである。

一〇月二〇日、住井常務は三井綱町クラブでクレーマー大佐と会い、三井本社改革案を示したが、クレーマーの反応

は予期通りの完全な否定であった。そして、逆に「自発的ニ解体シナイラバ命令デ解体サセル」と指示され、一〇月二四日までの日限を切った回答を要求された。万事休した三井は、翌二一日、三井同族に解体の了解を得たうえで、二二日住井常務がクレーマーを訪れ、解体承認を伝えた。

(1) 瓜生「財閥解体問題ノ経過概要——日附別ニ見タ覚書」。この「経過概要」は、瓜生春雄によって一九四八年五月に作成されたもので、記事は、一九四五年八月一日から三井本社の解散が認可された一九四六年二月一二日まで記載されている。

(2) 前掲、審議室「日誌」九月二五日付記事。

(3) 住井辰男は、後日この会見の模様をつぎのように回想している(住井・松本両氏「談話筆記草稿」昭和二二年五月)。「……この九月末頃から財閥の戦争責任に関する批判諸説が紛々として内外に起って来た。之に対して私共としては秘かに説明の機至るを待ってゐたところ、小室と云ふ軍需省の事務官の紹介で、クレーマー大佐と初の会見をすることになった。これは双方共希望してゐた意志が偶然合致して行はれたもので、九月廿七日綱町のクラブで、松本・宮崎両君と三人で彼と会った。越えて十月一日第二回の会見をした。それはクレーマーに招かれて帝國ホテルに赴いたので、三井財閥の機構・本質等について詳しい話をと云ふことで、又三人で行き長時間に亘って話した」。

(4) 特別委員会綴込資料。

(5)・(8) 住井辰男はつぎのように回想している。

「十月十六日にはクレーマー大佐が本社に自分を訪問してきた。その時自分は本社の改革案なるものを提出した。ところが彼はどうしても改革ではいけないと、完全なる解体を強く主張して譲らない。そこで翌十月十七日には私は当時の吉田外相に会った。実は池田成彬氏と同列で会ふ予定であったが、池田氏が欠席されたので私独りで会った(松本氏同行)。是より先吉田さんは、戦争によって利益したのは新興財閥で、旧財閥は利益を得なかつたとの大胆卒直な意見を發表されてゐた。これは大いに内外の輿論を刺戟して、ある意味では反って逆効果を生んだところもあつたやうであるが、私としては吉田氏が事情をよく理解して呉れてゐる点を多として、クレーマーとの交渉について吉田外相には話す必要ありと考へたので、会談の際一層の援助を依頼すると共に、私自身の考へも亦吉田さんの頭に入れておいたのだった」。(前掲「談話筆記草稿」)。

(6) 前掲、瓜生「経過概要」。

(7) 特別委員会記録綴込資料。

(9) 前掲、瓜生「経過概要」。

(10) 前掲、住井・松本「談話筆記草稿」。

(11) 住井辰男はつぎのように回想している。

「同日(一〇月一八日)又松本・宮崎両氏と大蔵大臣官邸に赴き、渋沢大蔵大臣と小笠原商工大臣とに列席して貰って、クレマー大佐が強硬に解体を主張してゐることを話し、本社の事業は三井の私有物とするには余りにも大きな存在で、多分に国家的の意志に従ひ三井は解体してかまわぬかどうか、政府の意向見解を聞かせてもらいたいと頼んだ。その結果二度程経済閣僚懇談会にかけてくれたさうだが、連合軍進駐直後の事として総司令部から種々重要な要求や問題が續々提出され、当時の我が政府は其の対応措置に忙殺混迷、財閥の処置亦重要ではあるがそれに力を傾ける余裕がない、誠に遺憾ではあるが連合国側の意思に従ひ解体も亦已むを得ないであろうとの事なので、政府無力頼むに足らずと自分の腹はこの時決つたのであつた。(傍点引用者)」

(前掲「談話筆記草稿」)。

(12) 前掲、瓜生「経過概要」。

三 一九四五年一〇月二〇日から十一月七日まで

一〇月二四日、渋沢大蔵大臣の要請で、三井外四大財閥の代表者が出頭、大臣より正式に財閥解体指令の説明を受け、三井・三菱・住友・安田四本社の共同声明発表が予定された。しかし、この自発的解体の共同声明は、資料9の特別委員会記録にみるように、占領軍の意向に合はず実現しなかつた。<sup>(1)</sup>一〇月二六日には、大蔵省池田主税局長より、「昨日ノ閣議ノ模様ヲ仄聞スルニ、信託会社ヲ設立セントスル日本政府ノ対策案ハ米國側ノ容ルル所トナラナイ様子デ、米國側デハ米人ヲ入レタ管理委員会式ノモノヲ設ケントスル意向ラシク、日本政府トシテハ最早処置ナシト云フ形

ダ、或ハ米國側ヨリ何等カノ発表ヲ見ルコトニナルカモ知レナイ」といふ極秘情報を入手している。一月二日に開かれた第九回特別委員会は、事実上最後の委員会となった。<sup>(3)</sup>その記録は、資料9である。

資料9 第九回特別委員会記録

一月二日 午後一時五〇分

住井、松本、佐々木、菊地、今井、田代

住井 ワシントンカラ指令ガ来ヌ、共同声明ノ手筈ガ出来ナクナツテ、各社テンデンニナツタ

菊地 共同声明ハ誰ノ発意カ

住井 渋沢蔵相、世界ニアピールスル筈ダツタガ、ソレモダメニナツタ

今井 ドウナルノカ

住井 総会ハ十二月、一日ニシヤウカト思ツタガ、五六日ニシヨウト思フ、解散シナクトモ実力ガナクナレバヨイト云フコトニナリハ

シマイカ、三菱ノヤリ方、財閥問題ハ向フノ云フ通りニシタラ向フハ面喰フ

佐々木 ラチモーア（東京新聞一月二日）ノ論読ンダカ

瓜生新聞ヲ取寄ヌ

住井 コンフィシケートノ関連、三菱ハタマ〜、総会ダカライ、ガ、我々ハ定款ノ改正ト重役ノ選任ノ為ノミニ臨時總會ヲ開ク要ハ

ナイネ、定時總會ヲ早クスレバヨイネ、尤モ早ク区切りヲツケタイモノダ

松本 テイレクテイブ

菊地 三井ガグズ〜シテキルヤウニ見エル、少シモ早ク示シタ方ガヨイ

住井 国内ノ単独声明差支ナキヤラM・H・Qニキイテモヨイネ

菊地 安田モ三菱モヤツタ、三井ト住友ハマダダト云フ輿論、十二月迄云ハナイトナルト 傘下会社デモ困ツタコトニナル、本社カラ

定ツタコトヲ云ツテ貰ハナイト永クナルト妙ナモノニナル

住井 セキュアリティーズコミティイ収受、国債（ヒモツキ）デ支配フ

松本 没収トナルカト云フ問題、賠償ト結ビツケテ

佐々木 ポーレイノ来ルノヲ待ツテルノデハナイカ

住井 クレーマーニハソノ程度ニシテ、四五日ウチニ新聞記者ニ話スカナ

今井 コノマ、デハ困ル

住井、松本両氏中座

佐々木 本社ハ変ルガ傘下会社ハ変ラヌト云フコトハ従業員ニ云ヘルネ

菊地 関係ハアル、首脳部問題モアル、定款問題モアル

松本 明日一〇時ニクレーマー来テクレト云ツテ来タ

住井氏帰席

菊地 調査部ノ資料ハヤハリ大切、資料課ヲ何等カノ形デ保有シ度イ

住井 三井経済研究所ヲ作り三、四年勉強サセ三井家ノ人ノ教育、研究發表ヲ狙ツタガ四〇、〇〇〇千円、五〇、〇〇〇千円ガ要ルノ  
デ……

併シ本社（清算）ハ残ルノデ二〇人位残シテオキ度イ、本社ノ株主ニハ迷惑ヲカケル、之ハ考ヘル必要アリ、株主ニ諒解ツケバ、  
政府、司令部ノ諒解ヲツケテヤリ度イ、但シイ、指導者ガ欲シイ、報恩会ノヤウニナツテハ困ル

（江戸君―復興会社ノ件ニツキ松本氏へ話ス）

復興会社ニ付テハ嫌ナ問題力起ツタ、追テ返事スルト云ツテ欲シイ

①三井ト云フ名前、②資金ノ点―担保、昨日テイレクテイブガ来テ所有株ヲ処置出来ナクナツタ

今井 東洋ソーダノ株ハ五二パーセント三井化学ガ持テキル、ソノ株ヲ今売ラウモ出来ナイ、ガ實際上ノ必要（事業上ノ）カラ、某会  
社ノ株ト交換シ度イト云フトキ、単的ニヤレバ合併スレバヨイ、サウ云フコトハ今遠慮スベキカ否ヤ

住井 孫会社ナライ、ダラウ

今井 筋ガ通ツテキルノダカラ……、孫会社ハ外シテ貰ヒ度イ

松本 孫会社デ外サレタモノアルトカ、今調べサセテキル

佐々木 子会社ハイクラ大キクテモ、持株ノパーセントモ問題ニナツテキナイヨ

菊地 併シフアミリ―財閥ハナクナルガ、十五財閥ヲミルト、物産、鋳山、化学等モ問題ニナリハシナイカ

松本 自分モノコ迄行ク可能性アリト思フ、先方ノ考ヘトシテコミッシヨ<sup>ン</sup>ガ、許可ナクシテハ売ツテナラナイ会社株式（手ヲツケル可能性アルモノ）売ルトキハ従業員ニ優先權ヲ与ヘルコト、書イタモノガアル

住井氏退席

今井 合併シ得ルモノハ合併（将来ハ良クナル見透シノモノデ目先悪クナルモ）シテ財閥株ヲ低価ニシタ方ガヨイ

菊地 三井ト云フ名ガ会社ノ上ニ皆残ルノハドウカ

松本 （原文ヲ読ミ説明）

最後案ニハ之ナシ、併シドコカニ其頭ガアル

菊地 復興会社ハドウナツテキルカ、方々デキカレル

今井 小林氏ノ復興院ト競合シナイカ

松本 クレ―マ―トノ交渉経過説明

三時散会

こうして、一月七日、財閥本社解体に関する大蔵省案（二月四日付）とそれになりたいするGHQの承認覚書（二月六日付）とが同時に公表された。さらに、三井にとっては、戦後復興の第一歩として計画した直系会社の改組による復興会社設立の道もとぎざされることになった。解体の公表された翌八日、三井本社は社長三井高公名で社員にたいして、つぎのような訓示をした（資料10<sup>4</sup>）。

資料10 三井本社解体に際しての社長訓示

今般連合軍最高司令部ノ基本方針ニ基キ且政府ノ意ヲ体シ当会社ハ解体ノコトトナリタルニ付、本日当会社従業員者ニ対シ社長ヨリ左記

趣旨ノ挨拶アリタリ

社長挨拶要旨

此度連合軍最高司令部ヨリ発表セラレマシタ通り、三井本社ハ三菱、住友、安田ノ各本社ト共ニ解体ノ方針ニ進ムコトトナリマシタノデ、茲ニ社長ト致シマシテ皆様ニ一言御挨拶ヲ申述べ度イト存ジマス。

願ミレバ昨年三月三井本社ノ発足以来、戦局ノ様相次第ニ悪化テ告ゲ、諸般ノ情勢益々困難ヲ加フル最中ニアツテ、重役始メ従業員一同克ク困難ニ堪ヘ、一致協力シテ当社ノ目的達成ニ粉骨精勵サレマシタコトニ対シ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス。当社モ漸ク其基礎ガ定マリマシテ、愈々其面目ヲ發揮セントスルニ際シ、図ラズモ敗戦ト云フ冷厳ナ事實ニ当面スルニ至リマシタコトハ寔ニ遺憾ノ極ミデアリマス。御承知ノ通り戦争終結ニ伴ヒ情勢ハ全ク一変シ、産業經濟モ亦新時代ニ即応シテ更始一新ヲ図ルベキ事態トナリ、茲ニ所謂財閥解体問題ノ發生ヲ見ルニ至リマシタ。私共ハ日本ニ於ケル財閥ノ存在ノ意義並ニ日本經濟再建ニ対シテ有スル其使命ヲ確信致シマスルガ故ニ、幹部一同責任ノ重大ナルヲ痛感シ、此問題善処ノ為メ全力ヲ傾倒シタノデアリマスガ、連合軍側ノ根本方針ニ基キ且ツ政府ノ意ヲ体シ解体方針ニ進ムノ已ムナキコトト相成リマシタ。

一、三井・三菱・住友・安田ノ四本社ハ夫々解体スル

二、右四本社ノ保有スル証券其他ノ資産ハ政府指定ノ機關ニ引渡ス

三、三井・岩崎・住友・安田各家ハ關係会社ヨリ退職ス

四、本社ノ重役ハ資産引渡後退職ス

以上四項目デアリマス。

之ニ因リ全三井事業ノ中枢機構ハ解消スルコトトナリ、傘下各社ハ今後夫々自主的ニ運営セラルルコトトナル訳デアリマス。

惟フニ三井家創業以来三百有余年、世ノ波瀾變遷ニ伴ヒ時ニ多少ノ隆替ヲ見タトハ申セ、兎モ角モ今日ノ偉容ヲ築キ上グルコトガ出来、其間運ノ發展ニ少ナカラズ貢獻ヲ為シ得マシタコトハ、偏ニ社会ノ恩沢ト歴代ノ幹部並ニ多数従業員各位ノ粒々辛苦ノ賜ト深く感銘致シテ居ル次第デアリマス。今ヤ国家ハ敗戦ノ非運ニ遭ヒ、三井亦解体ノ余儀ナキ事態ヲ迎フルニツケ、三井ノ歴史ヲ顧ミテ感慨無量ナルハ独リ私ノミデハナイト信ジマス。私ト致シマシテハ、三井家ノ立場ハ兎モアレ、今日ノ如キ情勢ノ下ニ於キマシテ、各位ガ終生ノ職場ト定メタ会社ト離レラルルコトハ衷心御同情ニ堪ヘヌ次第デアリマス。特ニ多年苦勞ヲ惜ニセラレタ方々ハ愛着ノ情断チ難



キモノガアラウト御察シ申上ゲマス。私モ亦会社ト離レ各位トオ別レセネバナラヌコトハ心淋シイ極ミデアリマス。社長ト致シマシテ各位ノ身上ニ付テハ重大ナル責任ヲ感ジテキルモノデアリマシテ、此点幹部ト共ニ万全ノ方策ヲ講ズル所存デアリマス。此際各位ハ従ラニ動揺スルコトナク、冷静ナル態度ヲ持シ、当面ノ事務処理ニ遺憾ナキヤウ御願ヒスル次第デアリマス。

以後の株式会社三井本社の解散過程は、つぎの通り実行されていた。

一九四五年二月一八日、三井本社第四回定時総会で三井高公社長、住井常務以下取締役の辞任。

一九四六年二月一二日、三井本社解散申請認可。

同年九月三〇日、三井本社解散。

(1) この経緯について、住井辰男はつぎのように回想している。

「この二十二日の三井の解体承諾をトップとして、外の各財閥も各々承服を申出た。これまではずっと非公式に経済科学部長との間の私的会談で話をもって来たのだが、公式には二十四日、大蔵大臣室に四大財閥の代表者が招かれて、大臣からG・H・Qの指令の説明をうけた。これが公式に日本政府が介在した会見だった。そして十月三十一日を期して四財閥連名で解体声明をせよとのことであった。その文案も実は出来てゐたのだが、何故か中止となった。そして十一月七日になってG・H・Qから解体要綱が発表になった。思ふに之等の事は総司令部の日本統治上の効果と宣伝とをねらったデリケートな意味を含んでいるものと見られるのであった。」（前掲「談話筆記草稿」）。

(2) 特別委員会記録綴込資料。

(3) 特別委員会の解散午餐会は、一月一六日に開かれている。

(4) 株式会社三井本社「社報」第68号、昭和二〇年一月八日付。

付記 終戦直後の占領軍の動向等について、天川晃氏から有益な御教示をえた。末筆ながら謝意を表したい。また、

本稿の基本資料となった「特別委員会記録」については、瓜生春雄による鉛筆走り書きメモから、山崎明子が判読筆写した。

(一九七六・一一・一五)